



DataScientist Society

データサイエンティストの就労意識

2015 → 2023 一般(個人)会員アンケートより

2024年 4月 3日

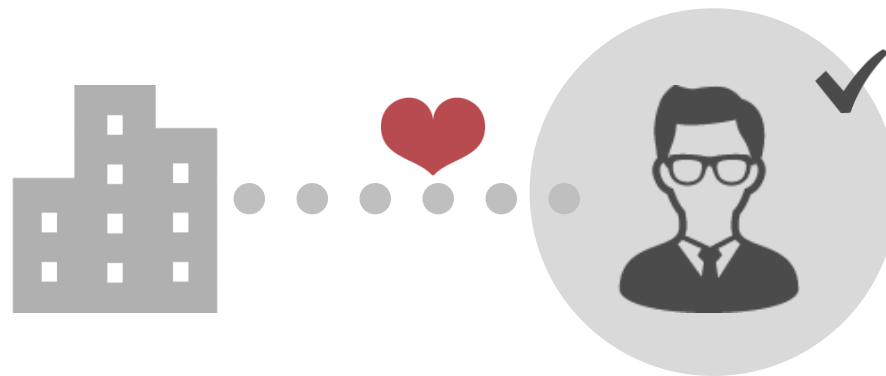
データサイエンティスト協会 調査・研究委員会

調査目的と概要

データサイエンティストの人材育成やスキルアップ、
組織内外の需要（企業）と供給（データサイエンティスト）の
マッチングに関する現状を明らかにするため

データ分析に携わる個人が抱える課題を把握・考察する

≡データサイエンティスト協会一般個人会員



アンケートURLを一般(個人)会員にメールで送信し、任意回答いただく

● 2015年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員
(実務者層およびマネジメント層)
- 調査日 : 2015年10月4日 ~ 10月28日
- 回収数 : 245
(うち85は実務・マネジメント以外)

● 2016年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員
(データ分析関与者)
- 調査日 : 2016年9月23日 ~ 10月3日
- 回収数 : 145 (うち54はデータ分析非関与)

● 2018年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員全体
- 調査日 : 2018年9月4日 ~ 9月28日
- 回収数 : 391

● 2019年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員全体
- 調査日 : 2019年11月26日 ~ 12月22日
- 回収数 : 414

● 2020年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員全体
- 調査日 : 2020年10月25日 ~ 11月30日
- 回収数 : 630

● 2021年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員全体
- 調査日 : 2021年11月9日 ~ 11月29日
- 回収数 : 581

● 2022年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員全体
- 調査日 : 2022年11月9日 ~ 11月29日
- 回収数 : 540

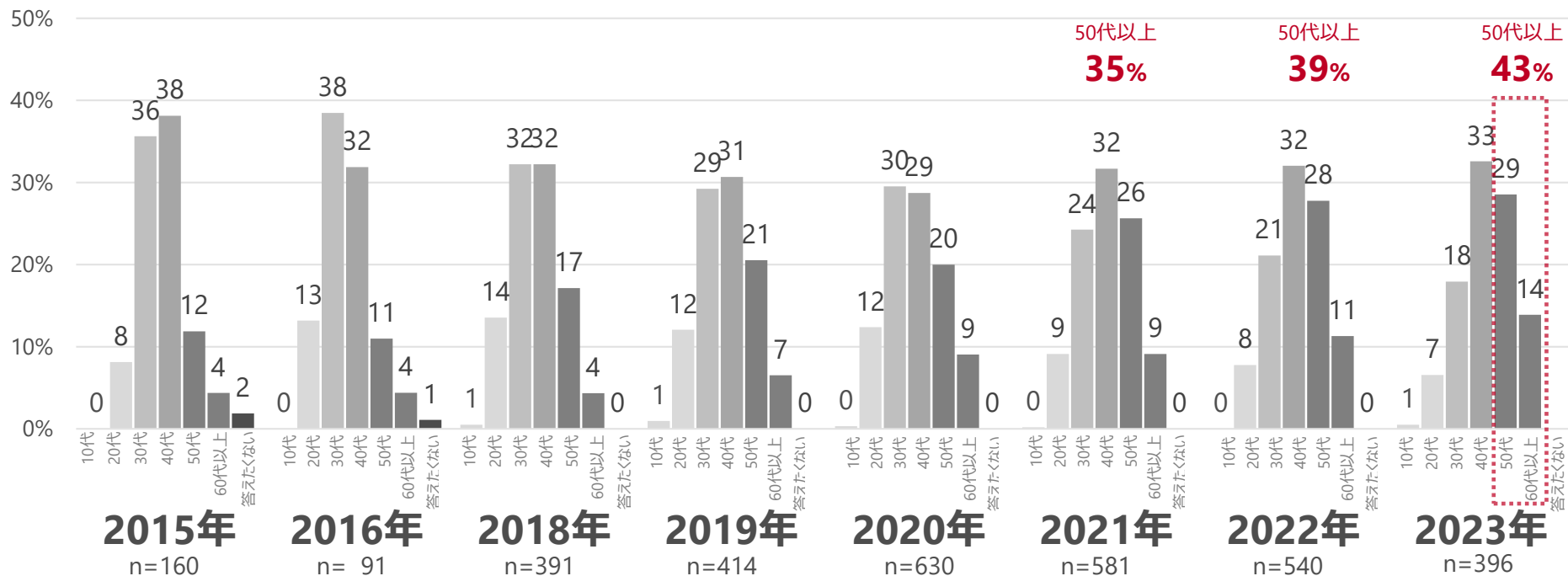
● 2023年 調査

- 調査対象者 : DS協会 一般会員全体
- 調査日 : 2023年11月9日 ~ 12月4日
- 回収数 : 396

一般会員調査の結果 ：属性と業務内容

30～50代が中心層

50代以上の比率が増加しており4割を超えた

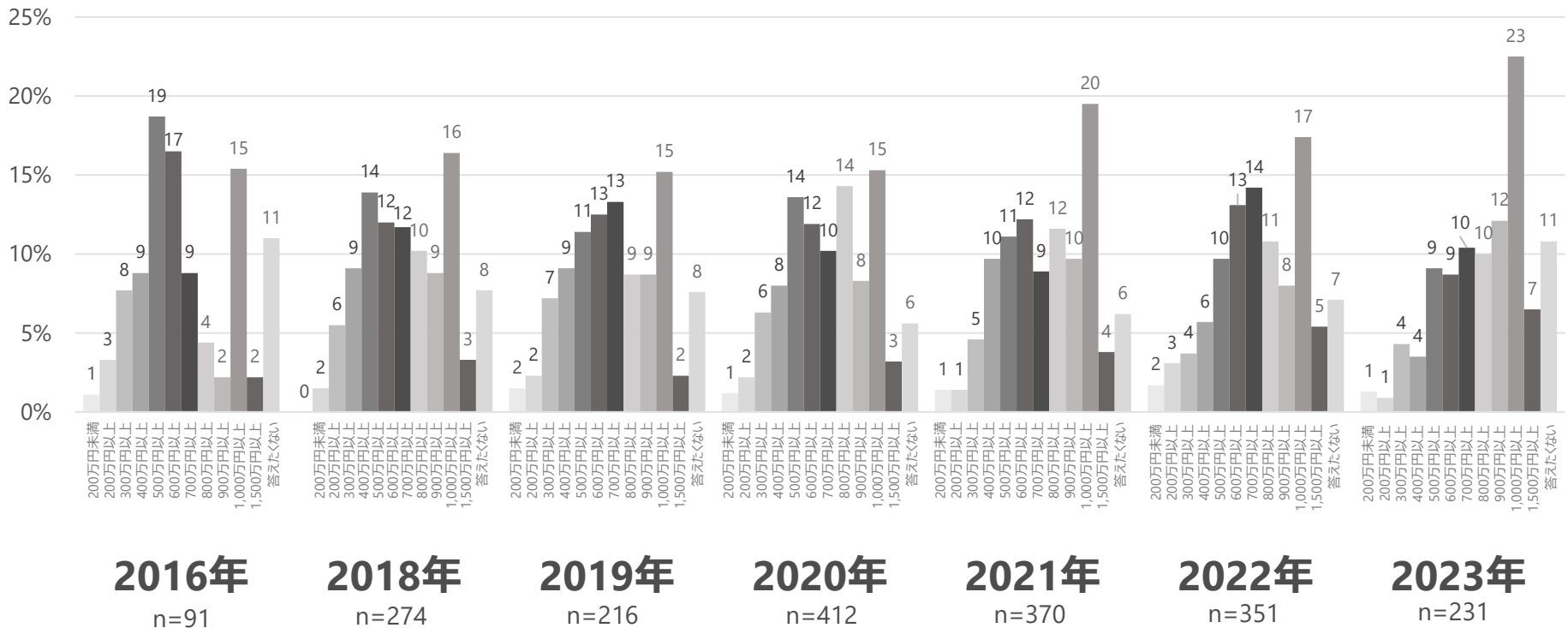


男女比は 9 : 1



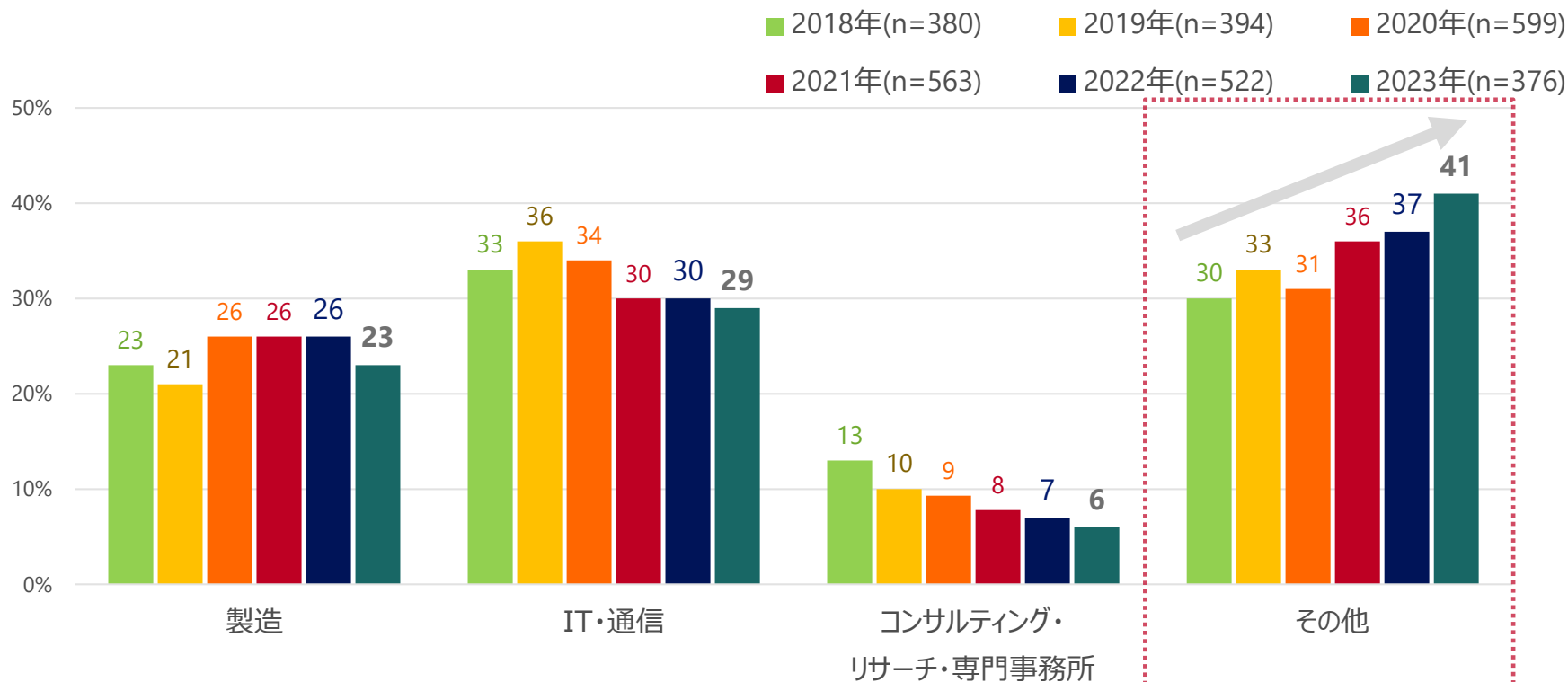
平均年収は930万円

平均：726万円 809万円 769万円 791万円 833万円 839万円 930万円



Q. あなたの所属する企業・組織の業種を教えてください ※複数所属する場合は主たるものを選択してください
(勤め人のみ回答/SA)

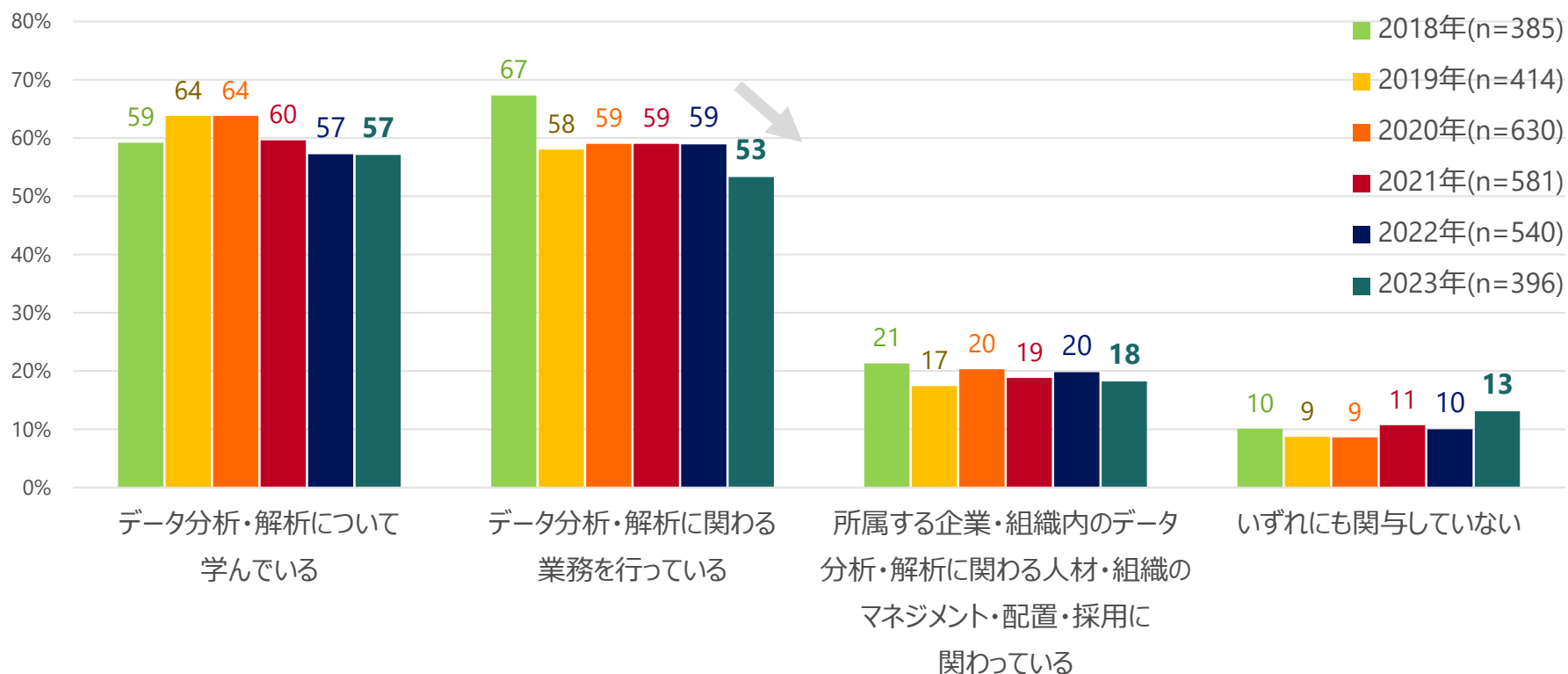
IT・通信が最多だが減少傾向がみられ その他が増加 各業種間の差が縮まってきている



※26の選択肢からまとめ上げて集計

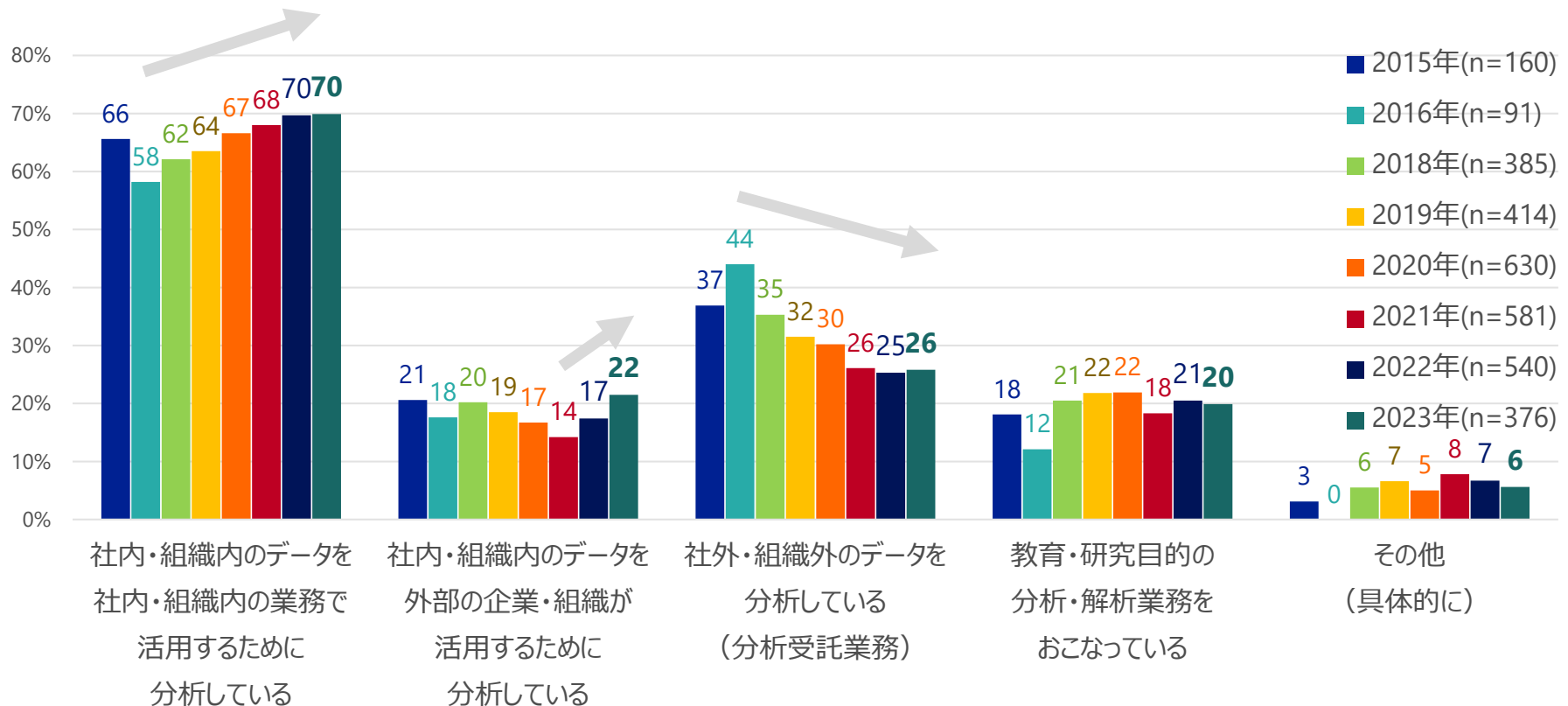
Q あなたは、データ分析・解析についてどのように関わっていますか。(MA)

データ分析に関わる業務を行っている割合が微減



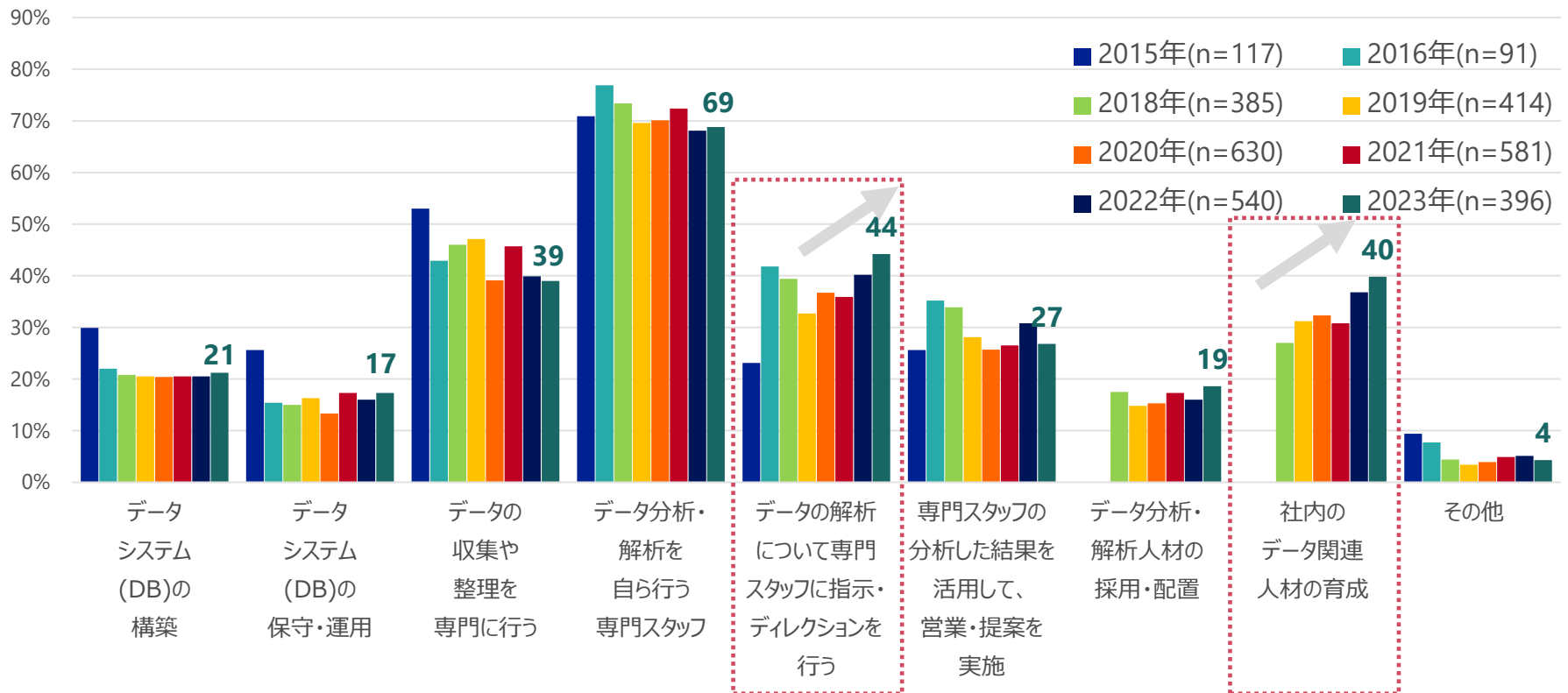
Q. あなたが所属している企業・組織ではどのような目的でデータ分析・解析をおこなっていますか。(MA)

社内データの分析・活用が伸長傾向



Q. あなたがおこなっているデータ分析・解析に関わる業務としてあてはまるものを選んでください。(MA)

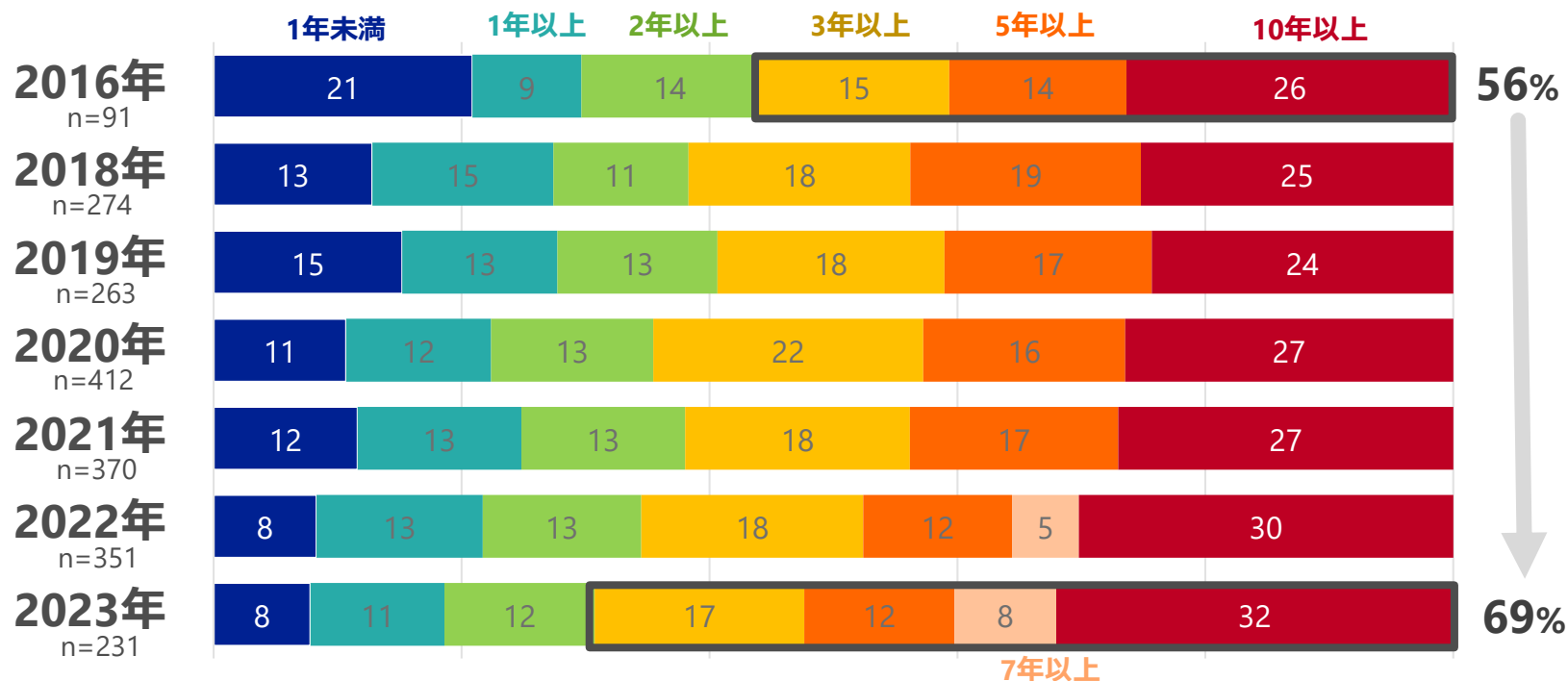
データ分析専門スタッフとしての業務が多数 現場のディレクションや人材育成業務従事者が増加



分析業務従事期間

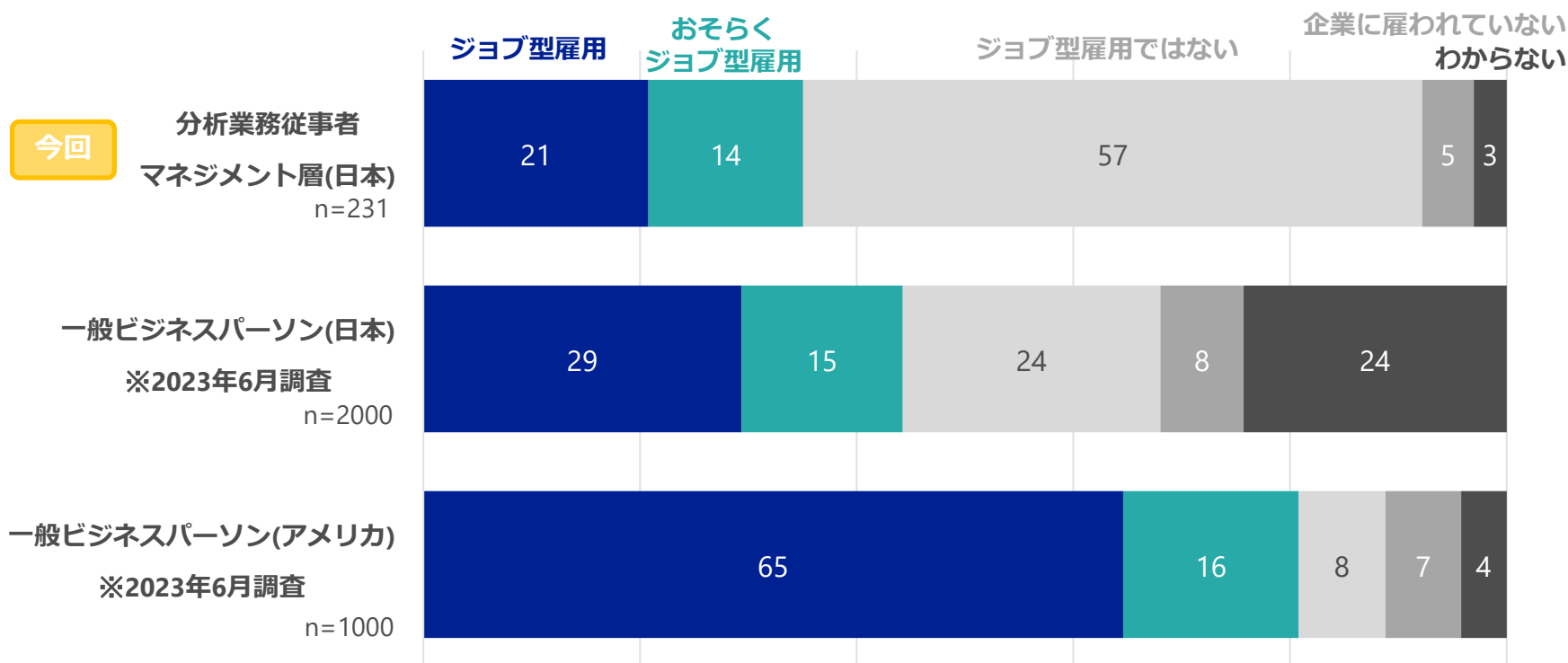
Q. あなたはデータ分析・解析にどのくらいの期間従事されていますか。（データ分析業務従事者のみ回答/SA）
※期間は現在所属されている企業・組織を問わず自身の経歴全体でお答えください。

分析業務に3年以上従事している人が 69%



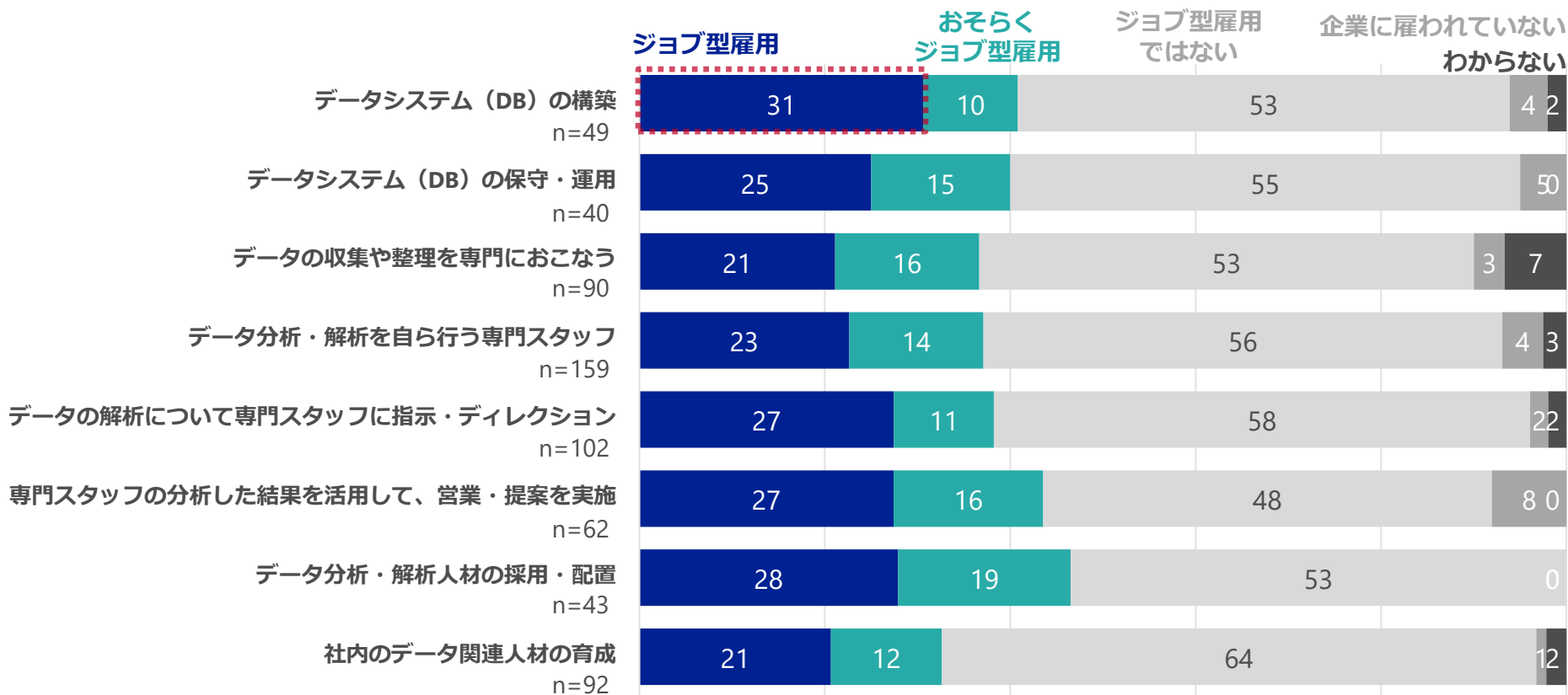
- Q. あなた自身の雇用制度は「ジョブ型雇用」ですか。
 ※ジョブ型雇用とは、働き手の職務内容や勤務地、勤務時間、報酬などについて、あらかじめ明確に規定して雇用する制度のことです。
 (データ分析業務従事者・マネジメント層のみ回答/SA)

分析業務従事者は日本全体と比べ ジョブ型雇用の割合は少ない



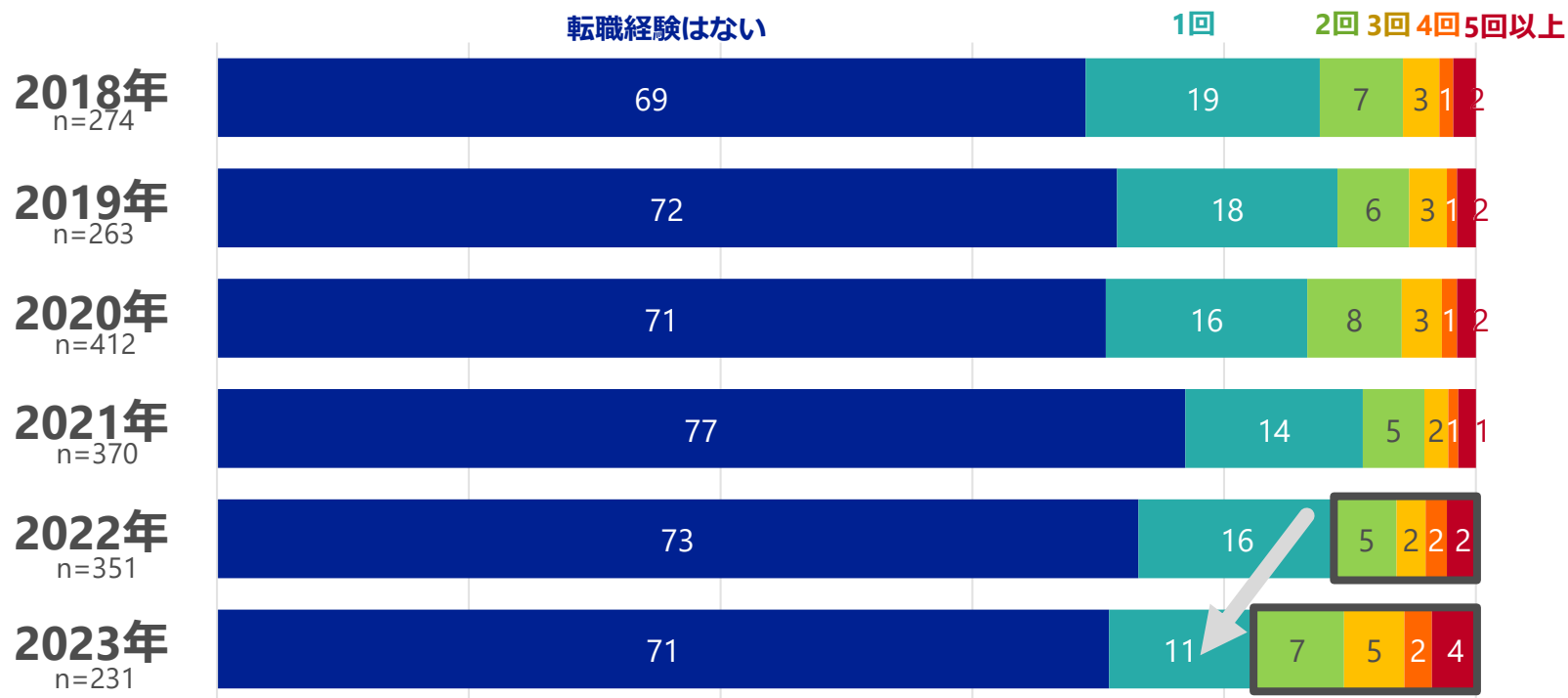
- Q. あなた自身の雇用制度は「ジョブ型雇用」ですか。
 ※ジョブ型雇用とは、働き手の職務内容や勤務地、勤務時間、報酬などについて、あらかじめ明確に規定して雇用する制度のことです。
 （データ分析業務従事者・マネジメント層のみ回答/SA）

データ分析関与者が関わっている業務別では データシステムの構築においてジョブ型雇用の割合が3割



Q. あなたは今までにデータ分析・解析業務において転職されたことはありますか。
(データ分析業務従事者のみ回答/SA)

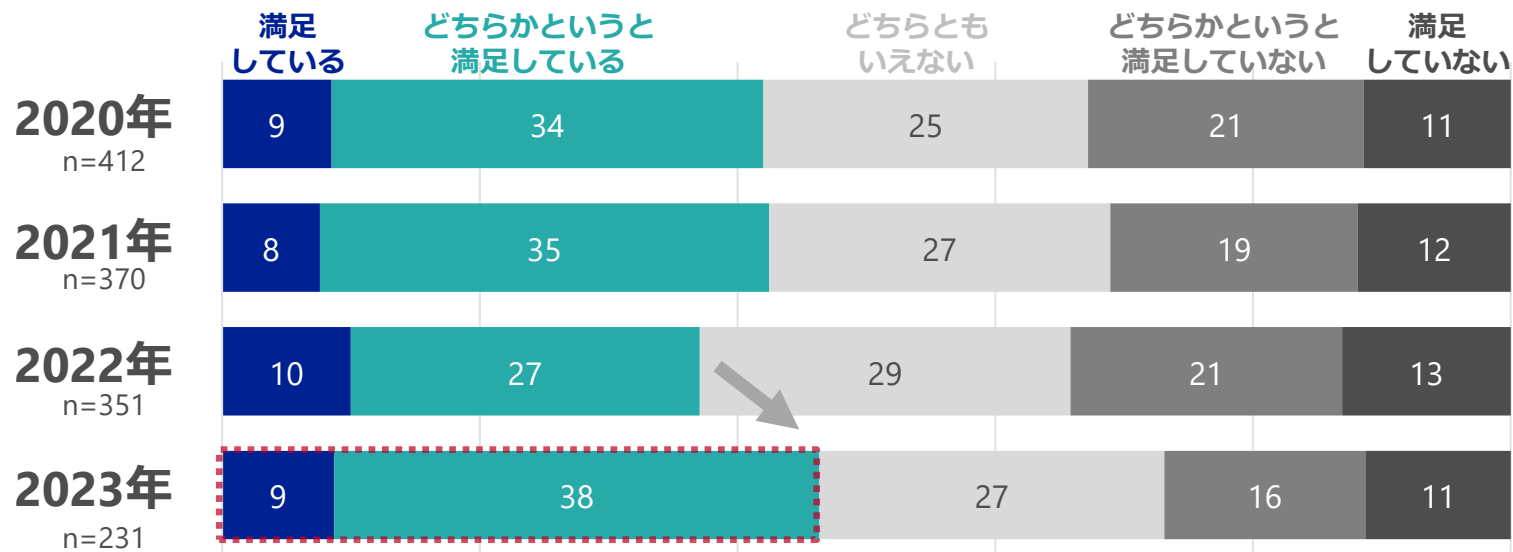
転職経験のない人が約7割と例年と変わらない中、 転職回数2回以上が18%と前年より7ポイント程増加



業務満足度

- Q. あなたは、現在のデータ分析・解析に関する業務について満足していますか。
(データ分析業務従事者のみ回答/SA)

業務に満足を示しているのは 47%* 前年よりも増加

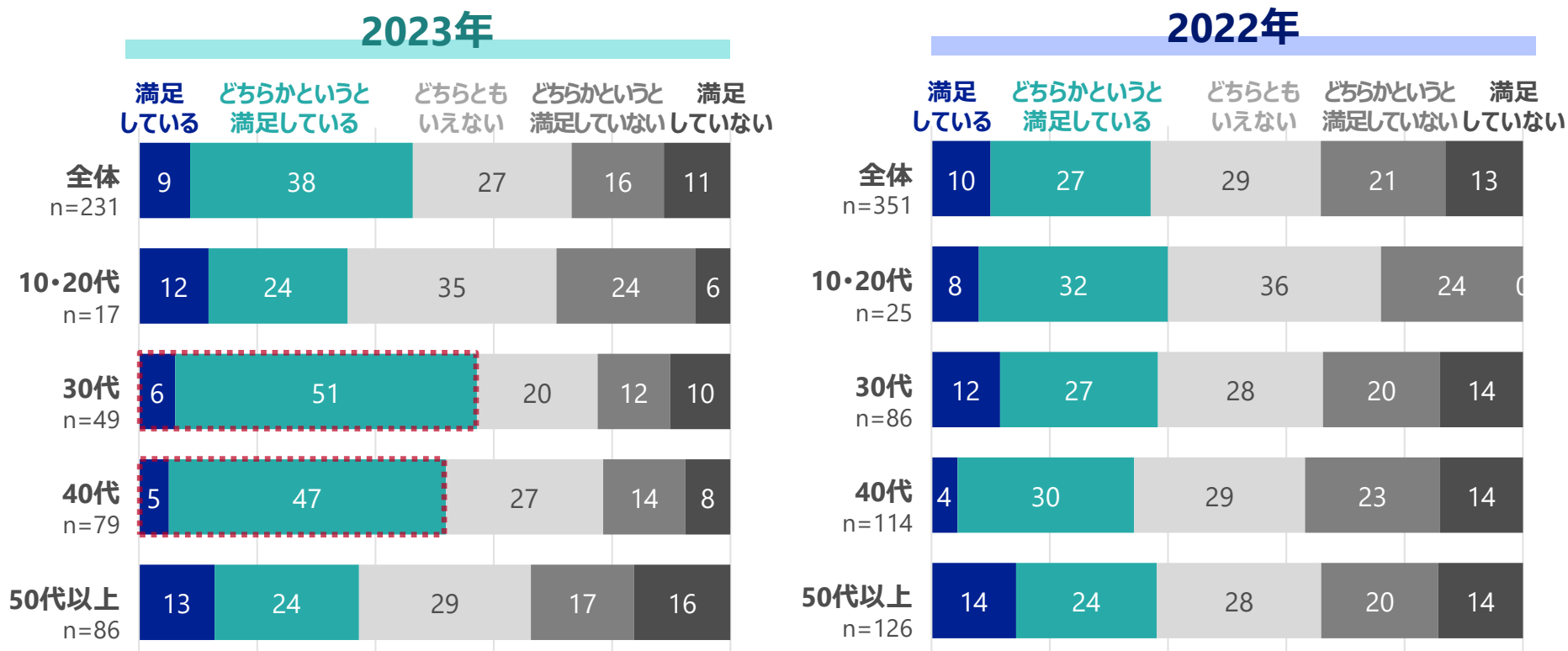


*満足している + どちらかという満足している の計

業務満足度（年代別）

Q. あなたは、現在のデータ分析・解析に関する業務について満足していますか。
 （データ分析業務従事者のみ回答/SA）

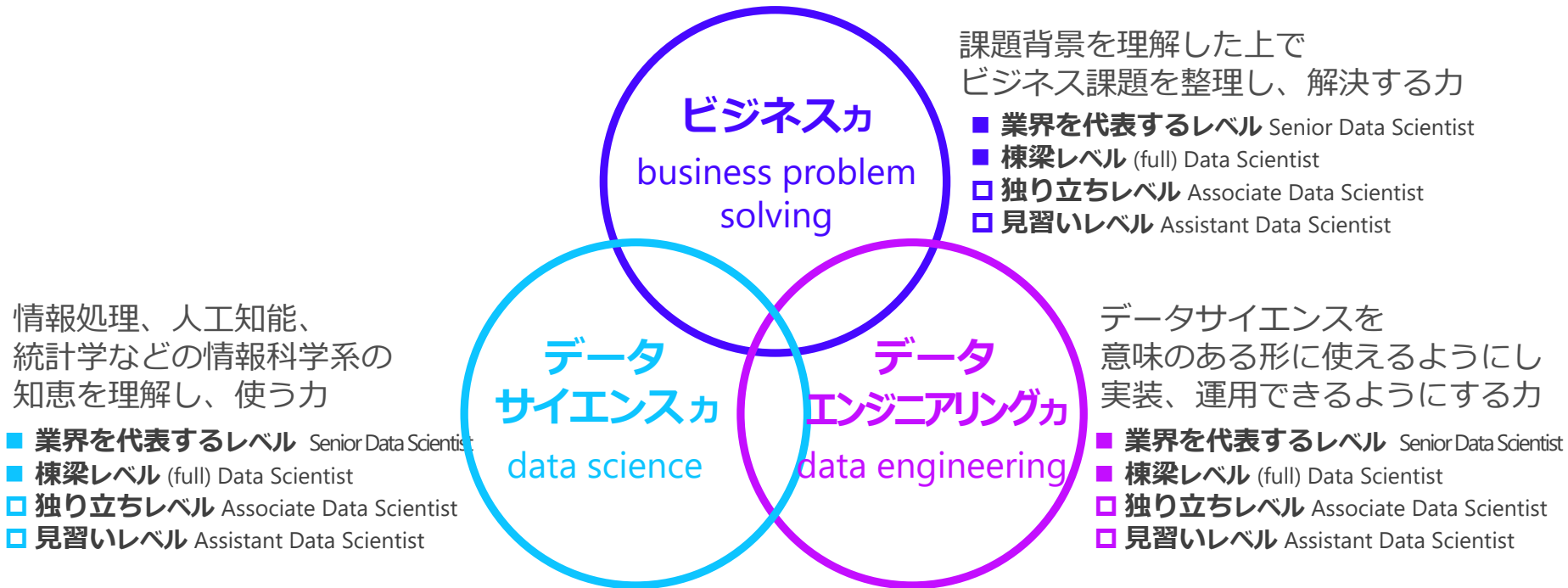
30～40代の業務満足度*が約50% 昨年に比べ、年齢別に差の開きがみられた



*満足している + どちらかという満足している の計

一般会員調査の結果 ：スキルレベル

3つのスキルセットについて 一人で現実的に全て持てる多くの場合の目標点は 棟梁レベル

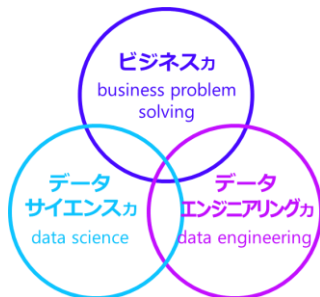


スキルセットとスキルレベルの認知・活用状況

- Q あなたは、データサイエンティスト協会が定義したこの3つのスキルセットについてご存知でしたか。(SA)
- Q あなたは、データサイエンティスト協会が定義したこの4つのスキルレベルについてご存知でしたか。(SA)

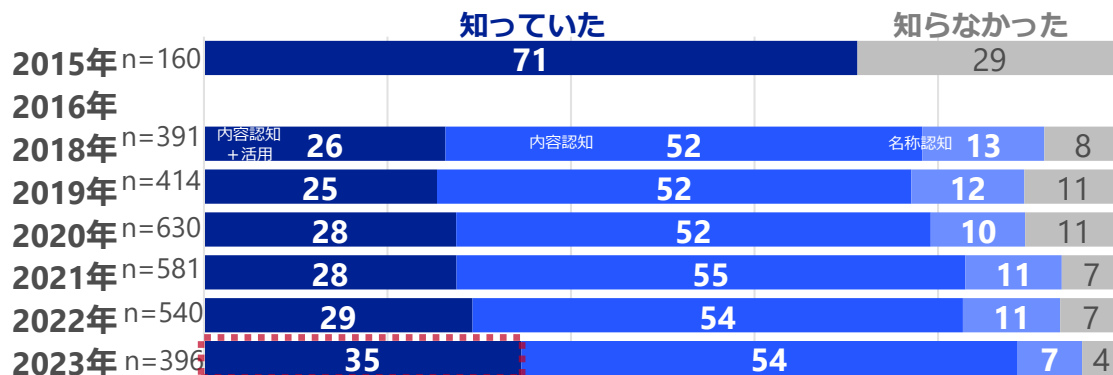
3つのスキルセットおよび4段階のレベルに関する認知は高まり続けており、活用も高まっている

スキルセット認知



スキルレベル認知

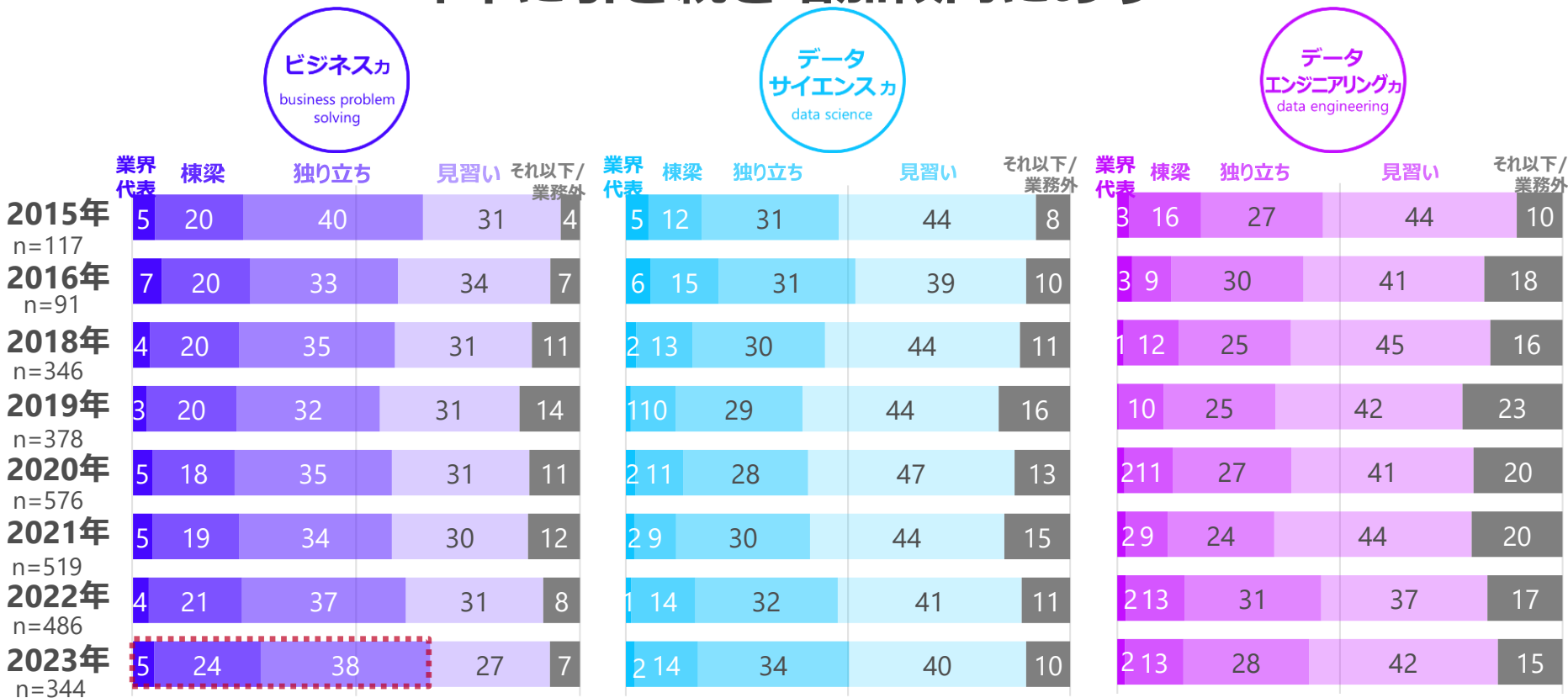
- 業界を代表するレベル Senior Data Scientist
- 棟梁レベル (full) Data Scientist
- 独り立ちレベル Associate Data Scientist
- 見習いレベル Assistant Data Scientist



現在のスキルレベル

Q. 現在のご自身のデータ分析・解析業務におけるスキルは、データサイエンティスト協会の定義ではどのレベルに当てはまるとお考えですか。（データ分析関与者/SA）

ビジネスカの独り立ちレベル以上の割合が6割以上 昨年に引き続き増加傾向にあり

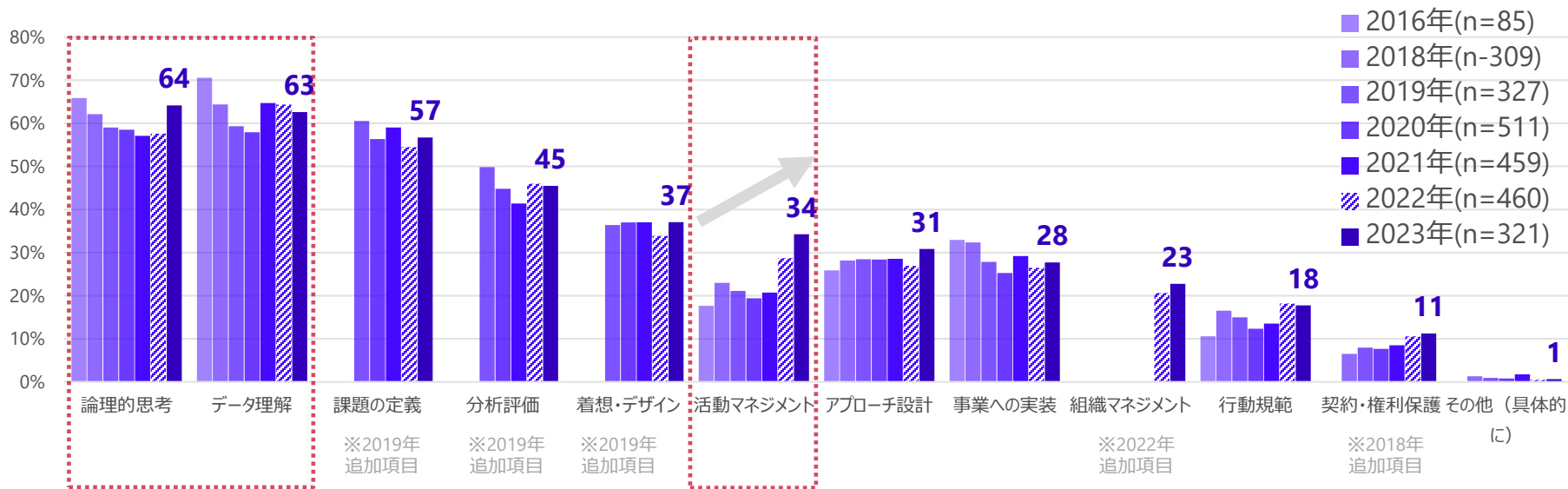


特に得意なスキルカテゴリ

Q スキルカテゴリとして、ご自身が特に得意とされていることを教えてください（MA/スキル見習い以上）

ビジネスカ
business problem
solving

「論理的思考」「データの理解」は6割が得意 「活動マネジメント」の割合が5ポイント増



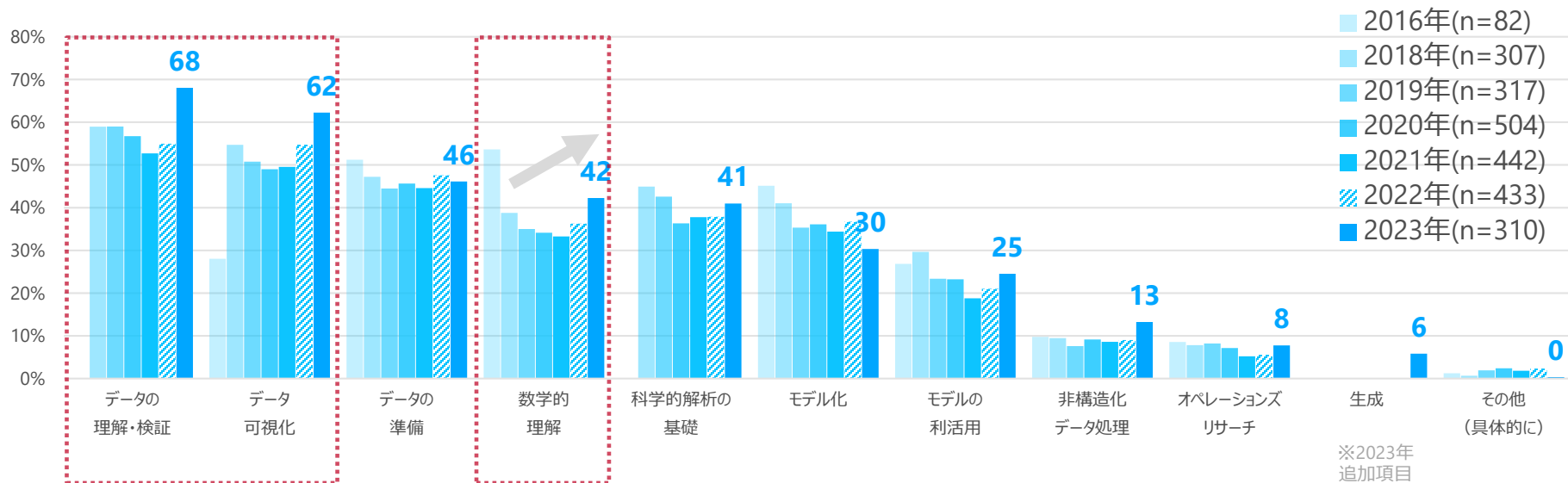
特に得意なスキルカテゴリ

Q スキルカテゴリとして、ご自身が特に得意とされていることを教えてください（MA/スキル見習い以上）



「データの理解・検証・可視化」は6割以上得意

「数学的理解」昨年より5ポイント以上増



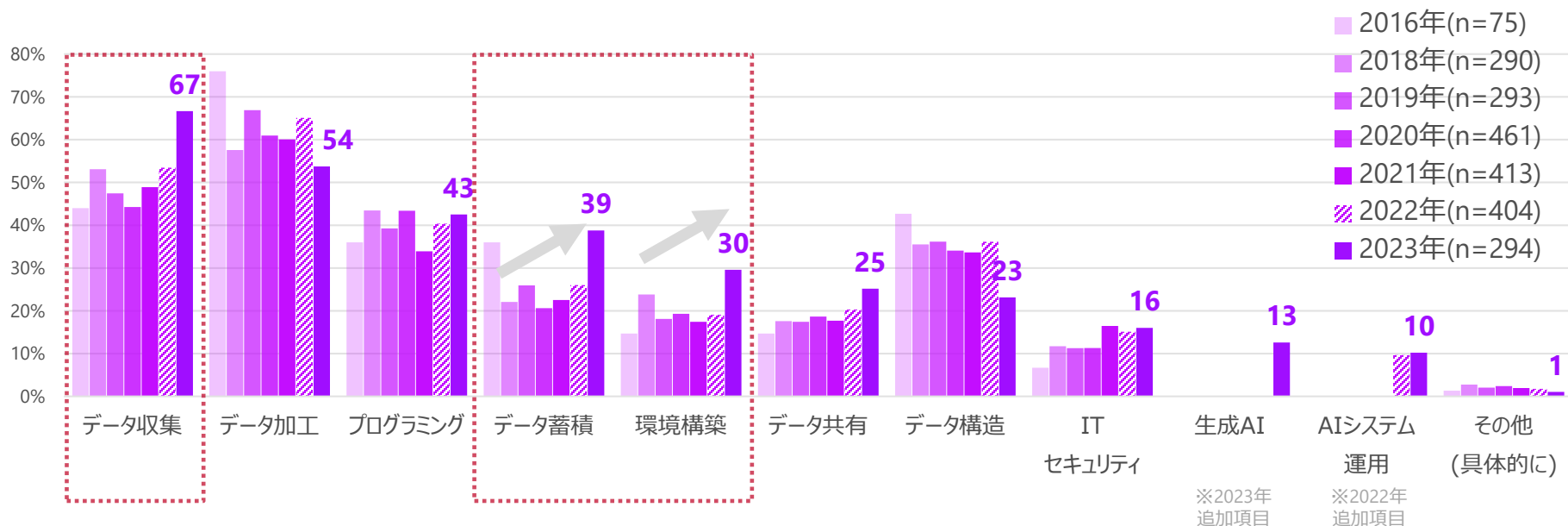
特に得意なスキルカテゴリ

Q スキルカテゴリとして、ご自身が特に得意とされていることを教えてください（MA/スキル見習い以上）

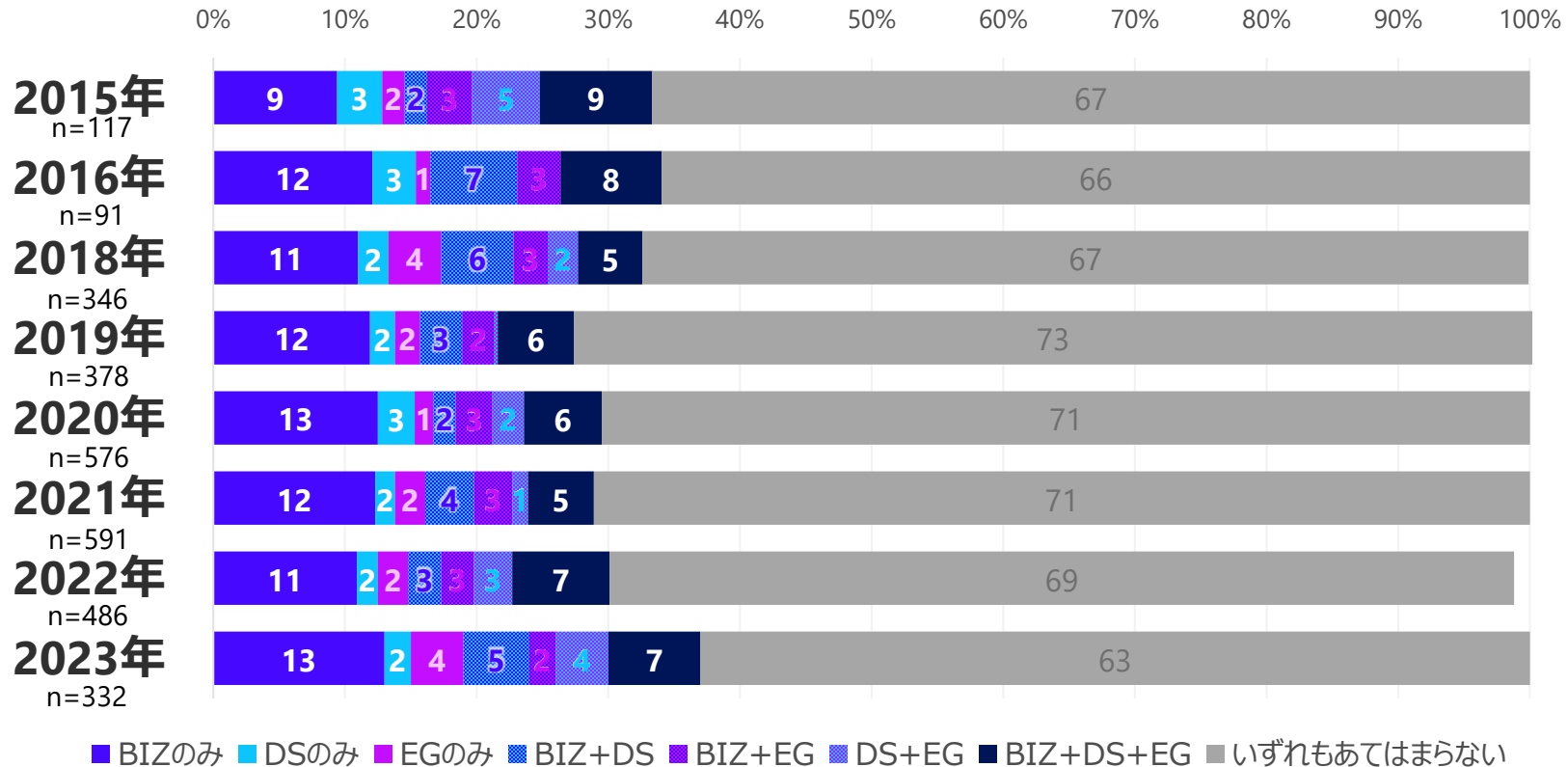
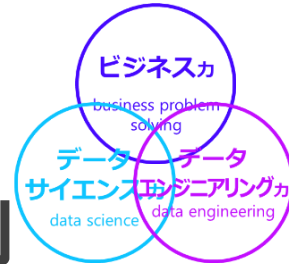


「データ収集」を得意とする割合が6割

「データ収集・蓄積」「環境構築」で前年より5ポイント以上増



いずれかのスキルセットで棟梁レベル以上に達している人は約3割

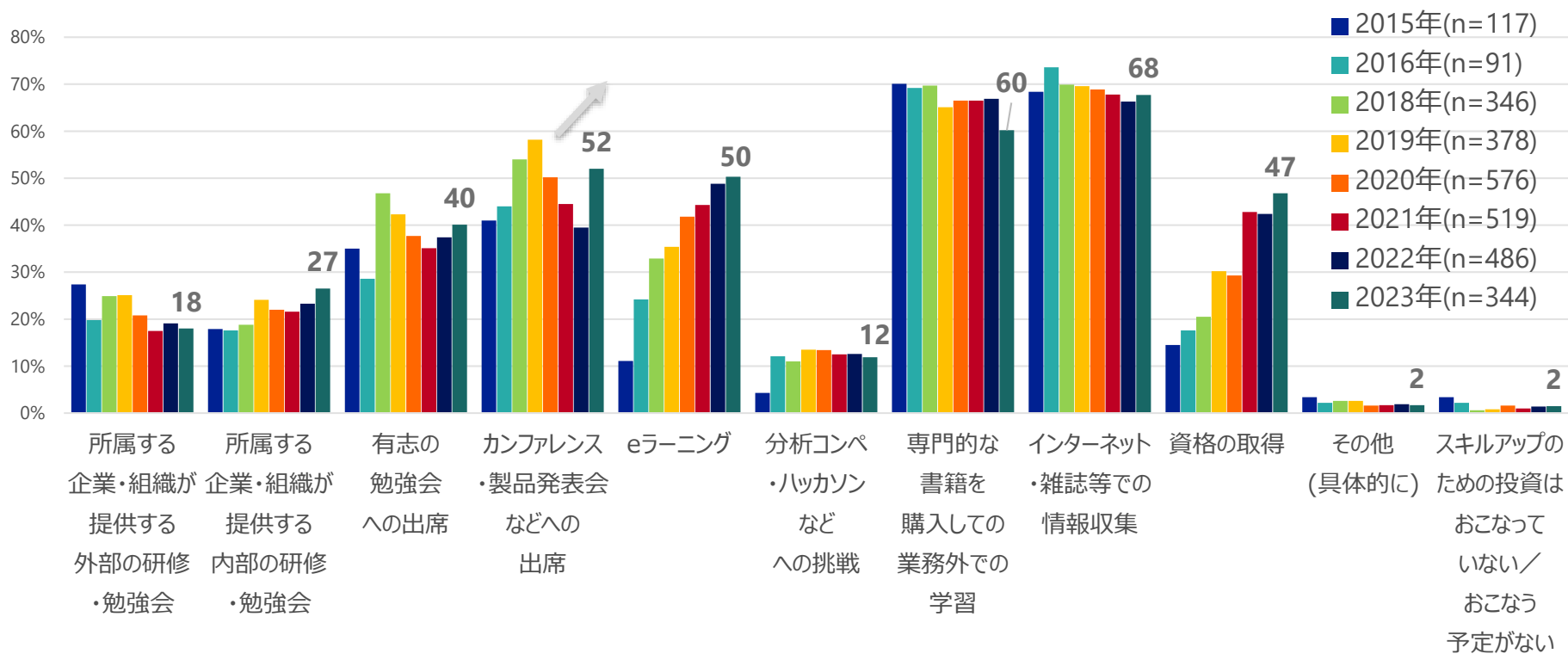


一般会員調査の結果 ：スキルアップ・人材育成について

スキルアップのために行っていること

Q. あなたが、データ分析・解析に関わるスキルアップのために現在取り組んでいることを教えてください。
(データ分析関係者が回答/MA)

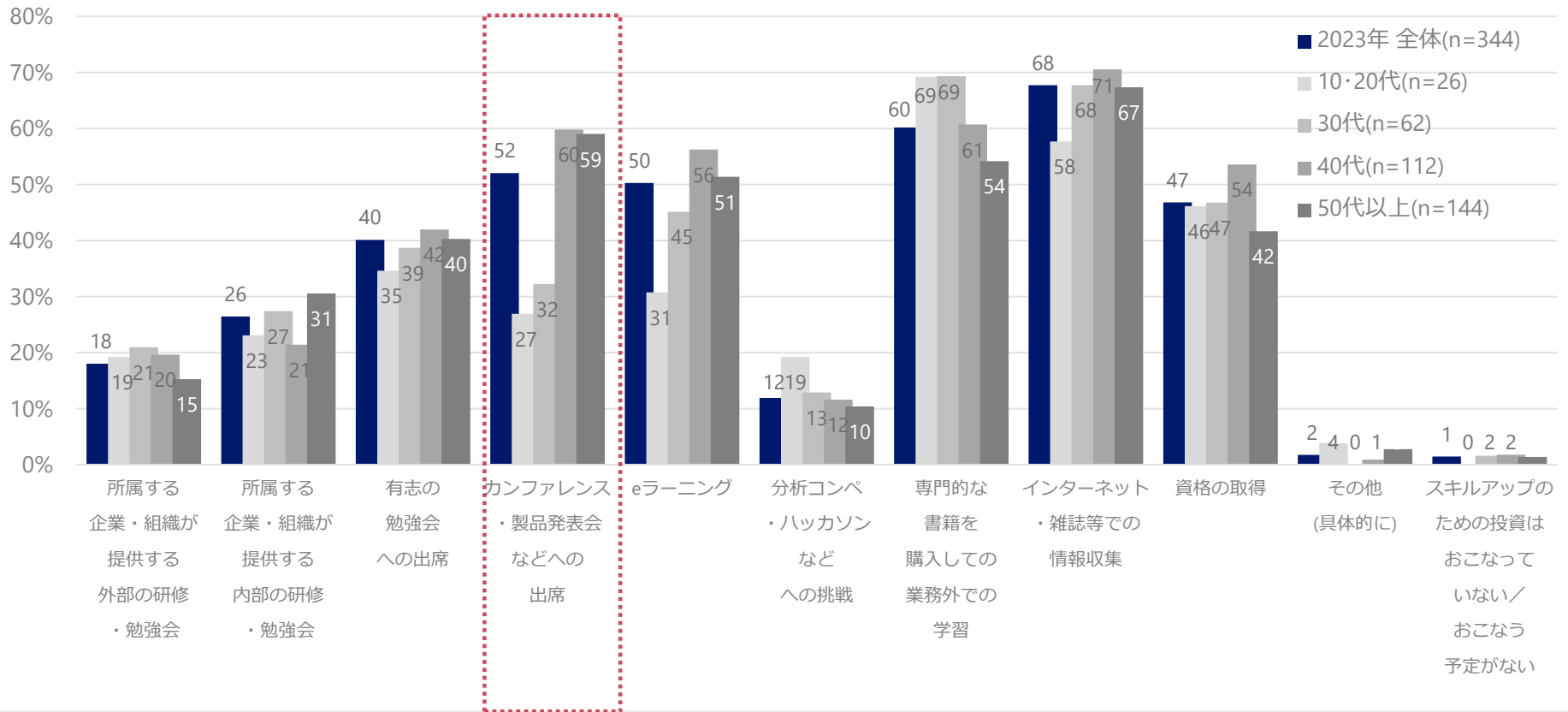
カンファレンス・製品発表会などへの出席が伸長 eラーニング・資格取得が継続的に伸長中



スキルアップのために行っていること（2023年・年代別）

Q. あなたが、データ分析・解析に関わるスキルアップのために現在取り組んでいることを教えてください。
（データ分析関与者が回答/MA）

40~50代以上は「外部のセミナーなどへの出席」が 10~30代よりも高い

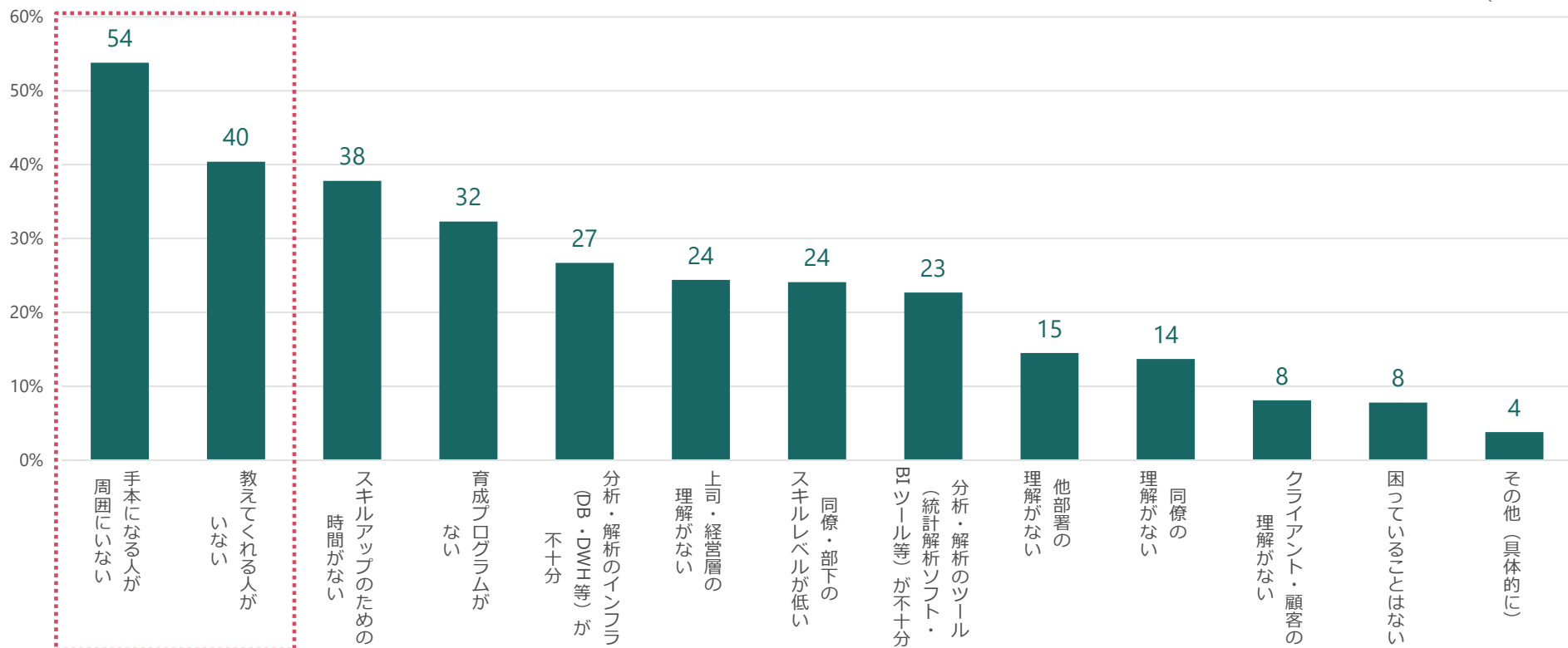


スキルアップ時の困りごと

Q あなたが、データ分析・解析に関わるスキルアップを考える際に、困っていることがあれば教えてください
(データ分析関与者が回答/MA)

データ分析に関する相談先やロールモデルの不足が課題

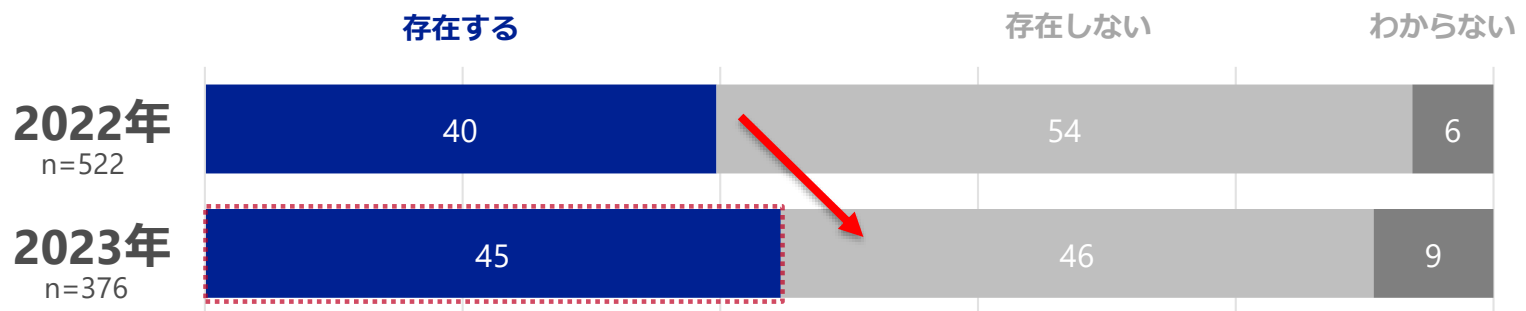
■ 2023年(n=344)



※2022年以前の下記は「あなたが所属する企業・組織内で、データ分析・解析に関するスキルを活かすうえで、困っている・不満に思っていることがあれば教えてください」より引用し比較
上司・経営層・他部署・クライアント・顧客の理解がない、手本になる人が周囲にいない、教えてくれる人がいない、分析・解析のインフラ・ツールが不十分、同僚・部下のスキルレベルが低い

- Q. あなたの所属する企業や組織では、「データサイエンス」に関する専門の部署やチームがありますか
(勤め人が回答/SA)

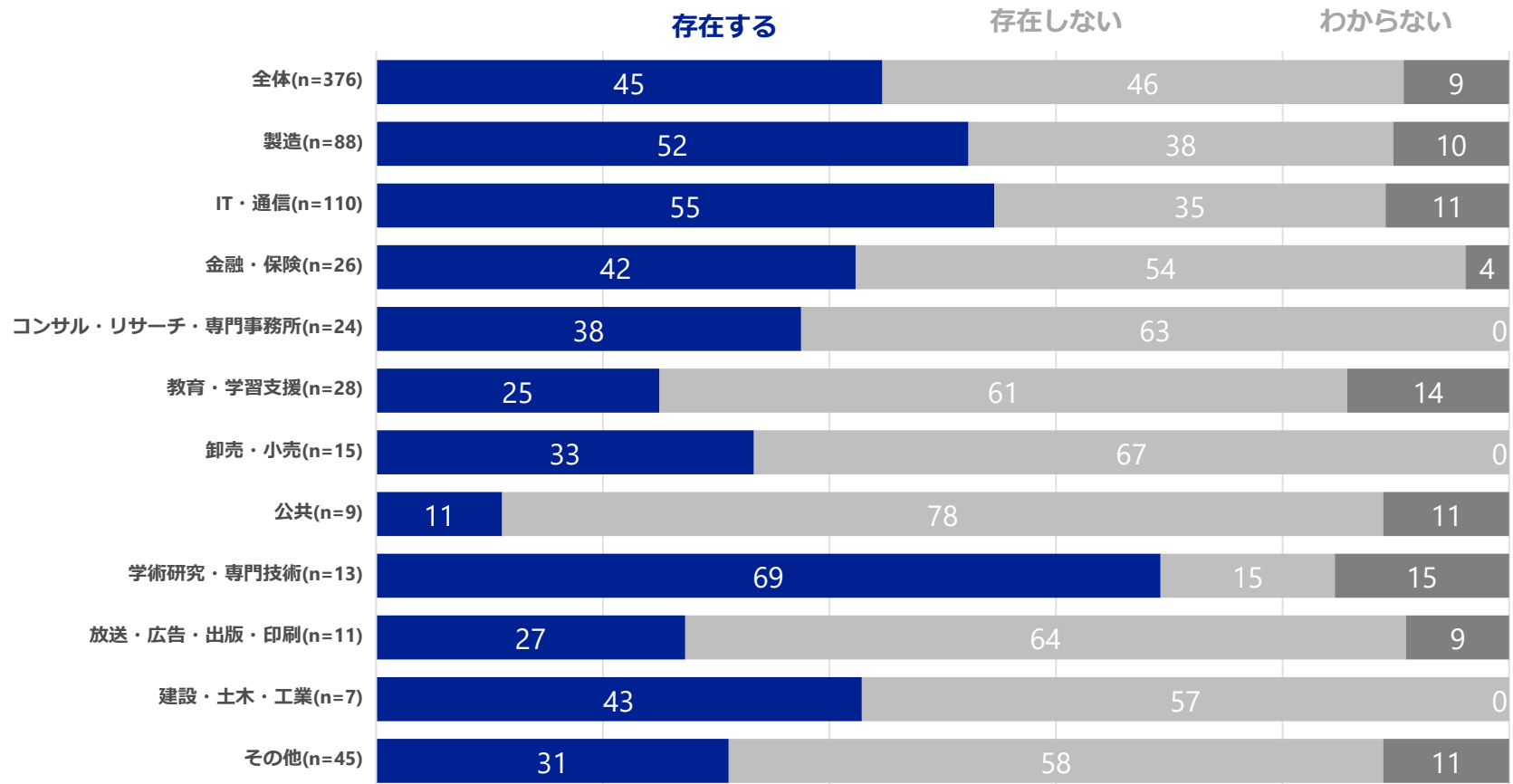
所属企業に専門組織があると回答した人の割合が 前年よりも伸長して45%



専門組織の有無（2023年・業種別）

Q. あなたの所属する企業や組織では、「データサイエンス」に関する専門の部署やチームがありますか
(勤め人が回答/SA)

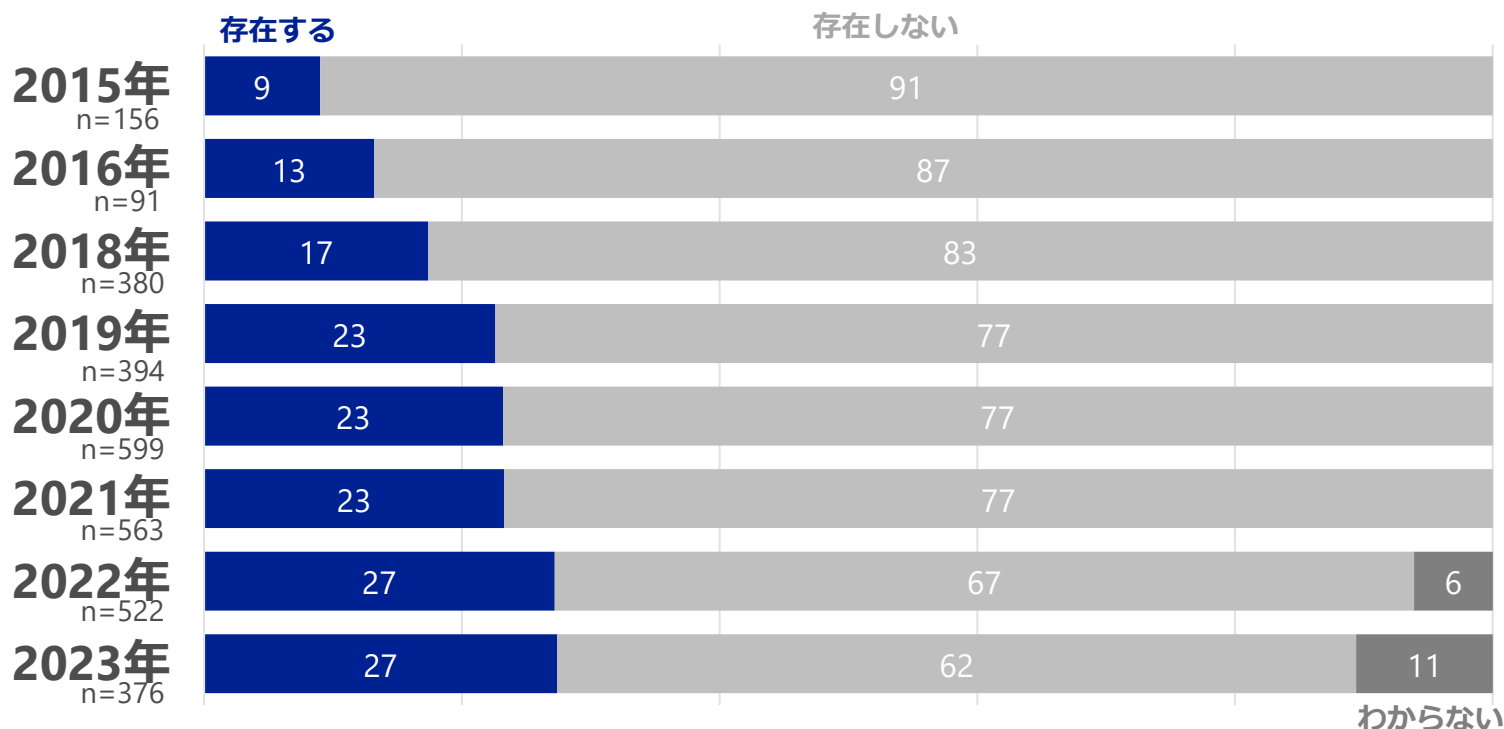
学術研究、IT・通信、製造で専門組織がある割合が高い



育成プログラムの有無

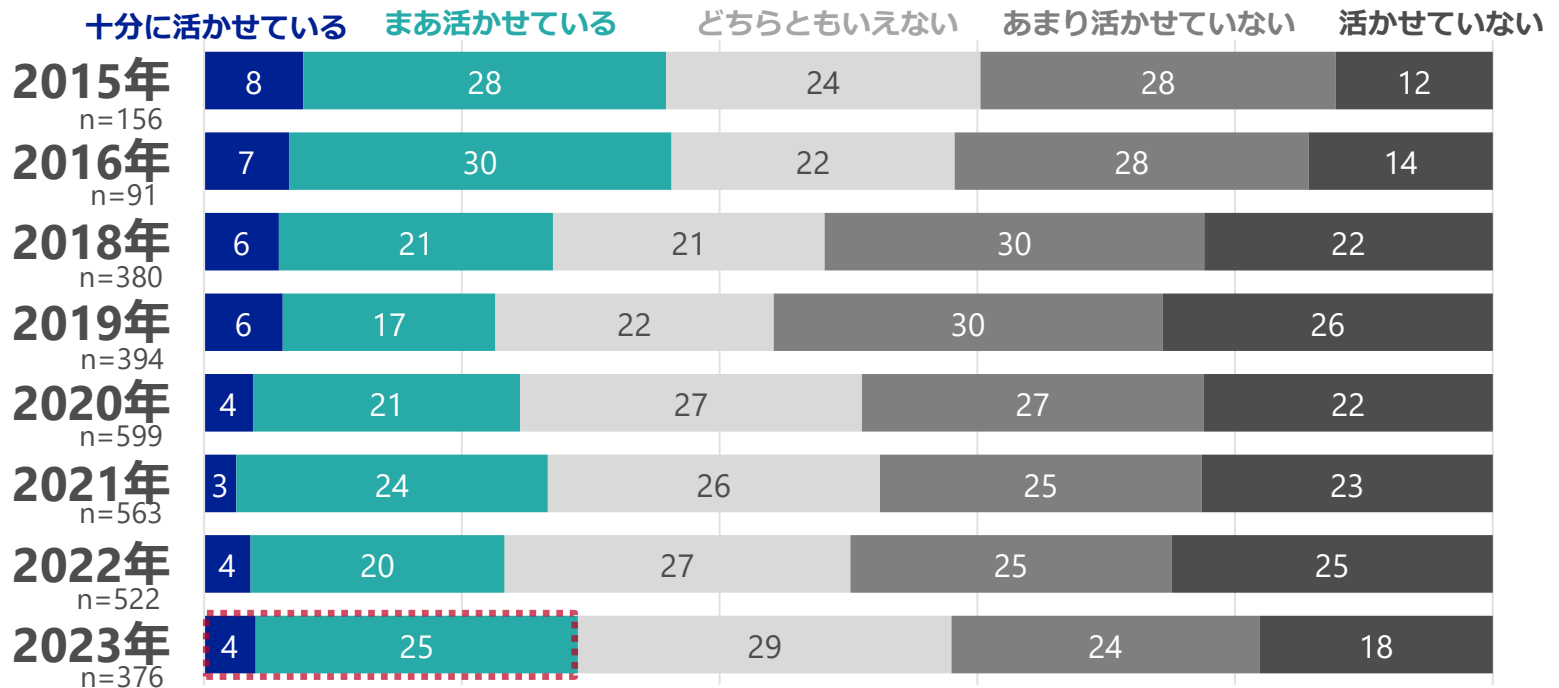
Q. あなたの所属する企業や組織では、データ分析・解析に従事する専門人材について独自の育成プログラムなどがありますか（勤め人が回答/SA）

育成プログラムを備える企業・組織は27%で維持 頭打ちになりつつある



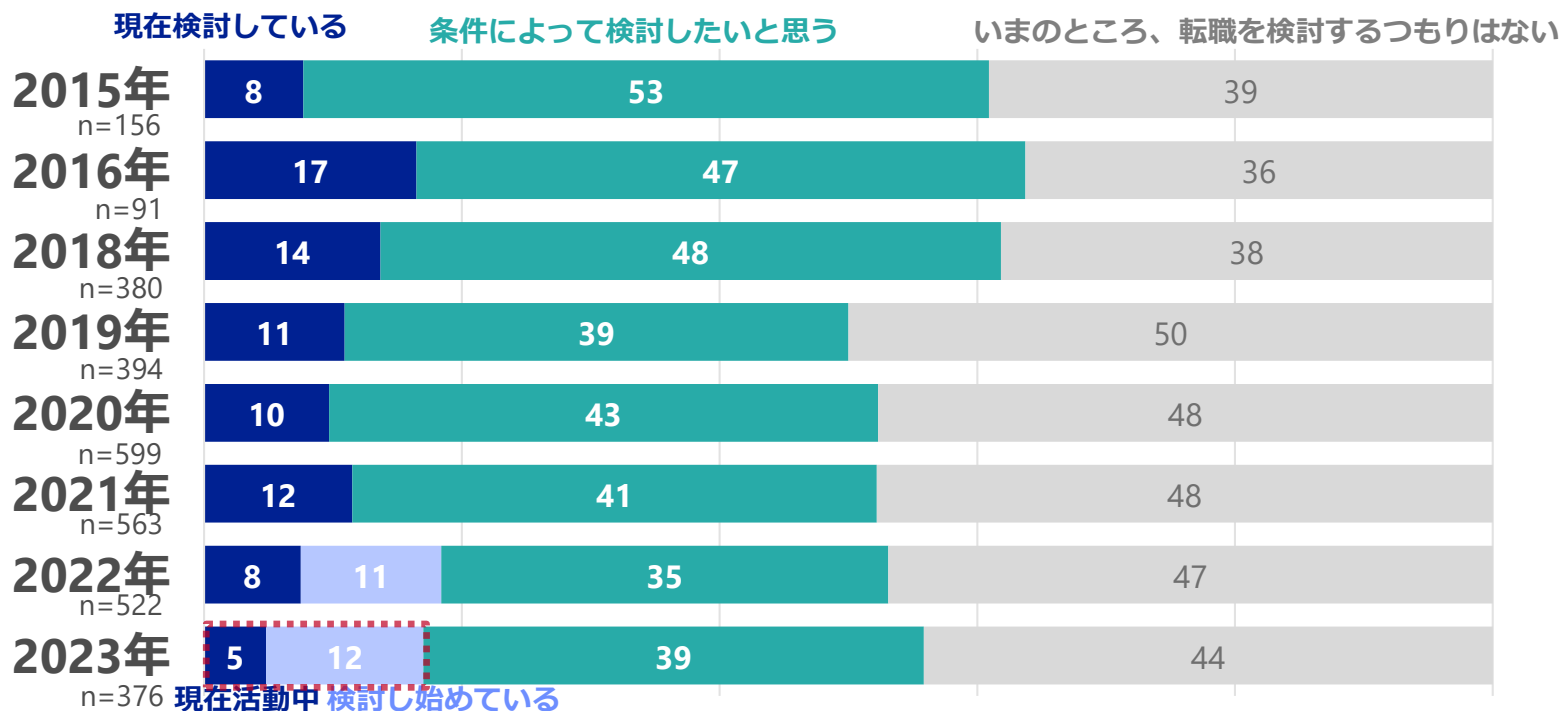
Q. 所属する企業・組織内で、ご自分を含め、データ分析・解析に関わる人材のスキルが活かせていると感じていますか。
(勤め人が回答/SA)

スキルが活かせているのは 29% 前年よりも5ポイント増加



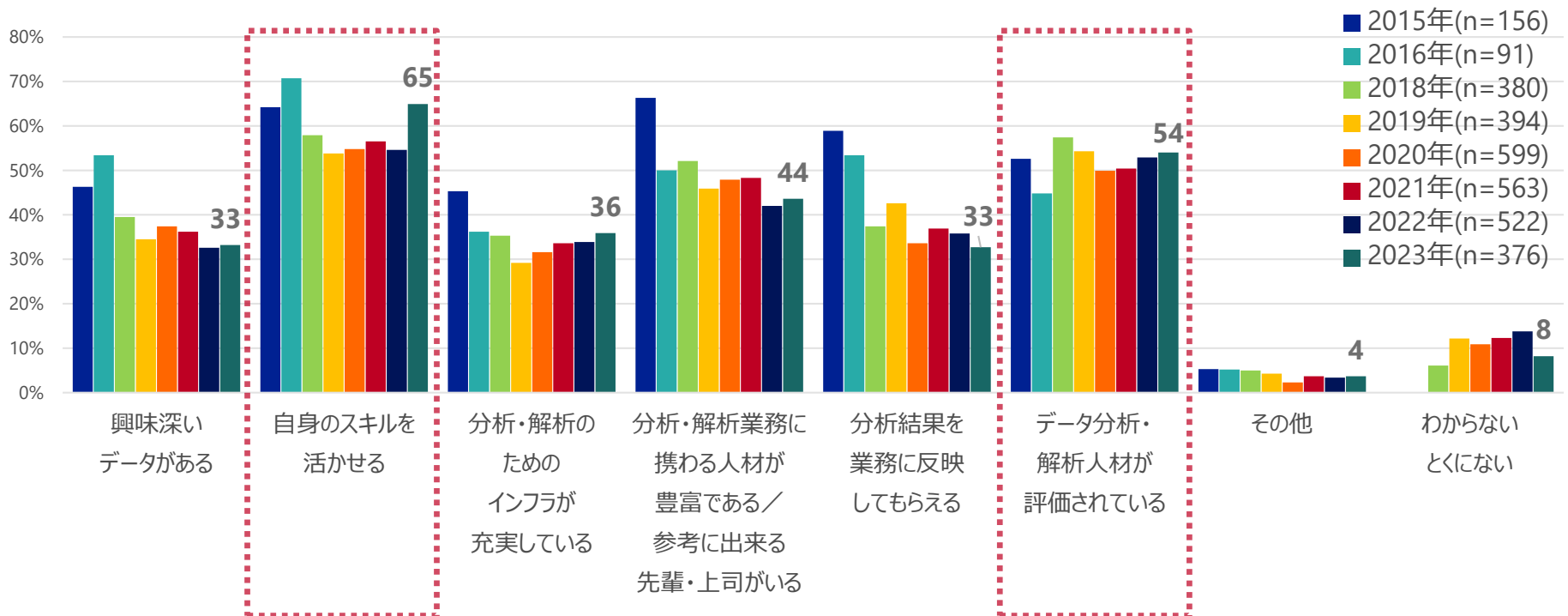
Q. あなたは現在、もしくは今後、データ分析・解析に関する業務において、転職を検討していますか。
(勤め人が回答/SA)

転職活動中・検討している人は 17% 条件によって検討したい層を含めると5割を超え 昨年と同程度



Q. 転職先を選ぶ際に、データ分析・解析業務環境に関わることで、重視したい点をお答えください。
(勤め人が回答 / MA)

スキルが活かせる・評価されることを重視

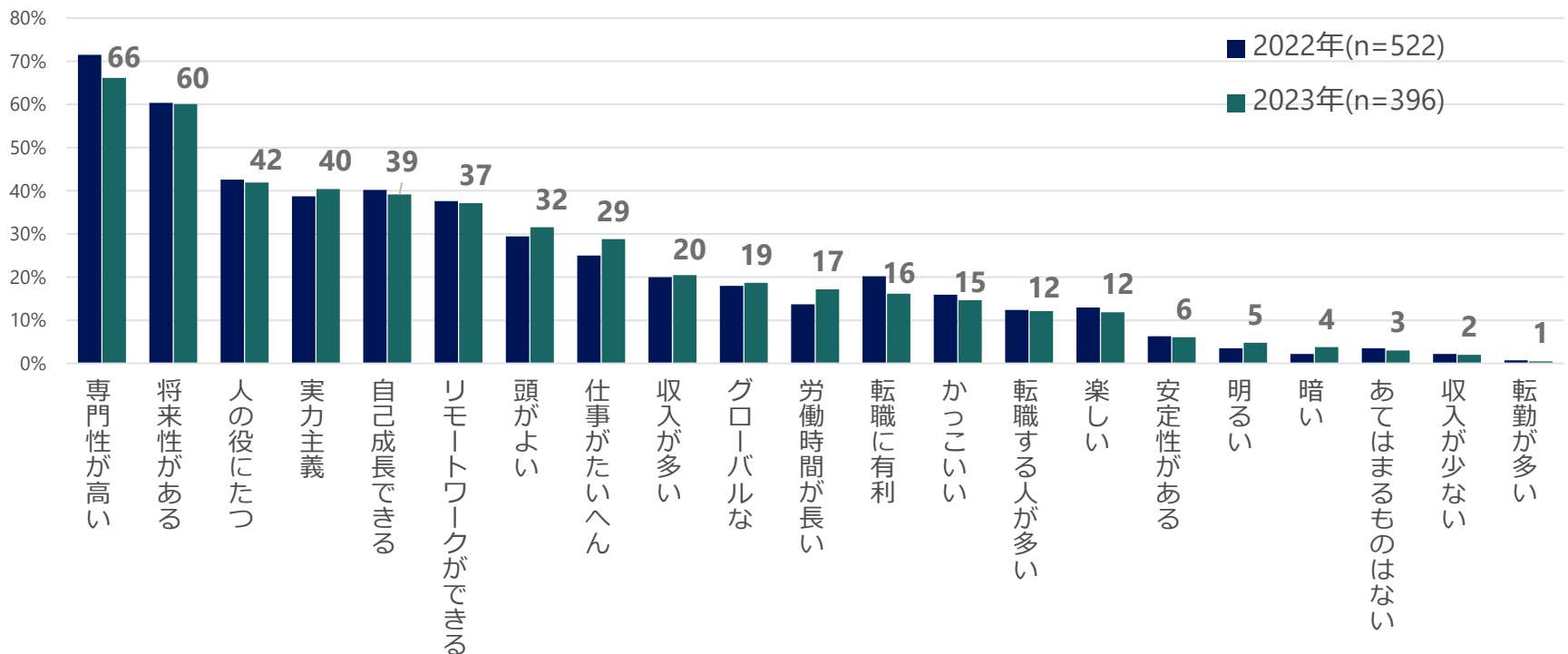


データサイエンティストのイメージ

Q. あなたは、「データサイエンティスト」という職種に、どのようなイメージを持っていますか。
(勤め人が回答 / MA)

専門性が高く 将来性がある というイメージ

仕事がつたいへん、労働時間が長い というイメージが微増



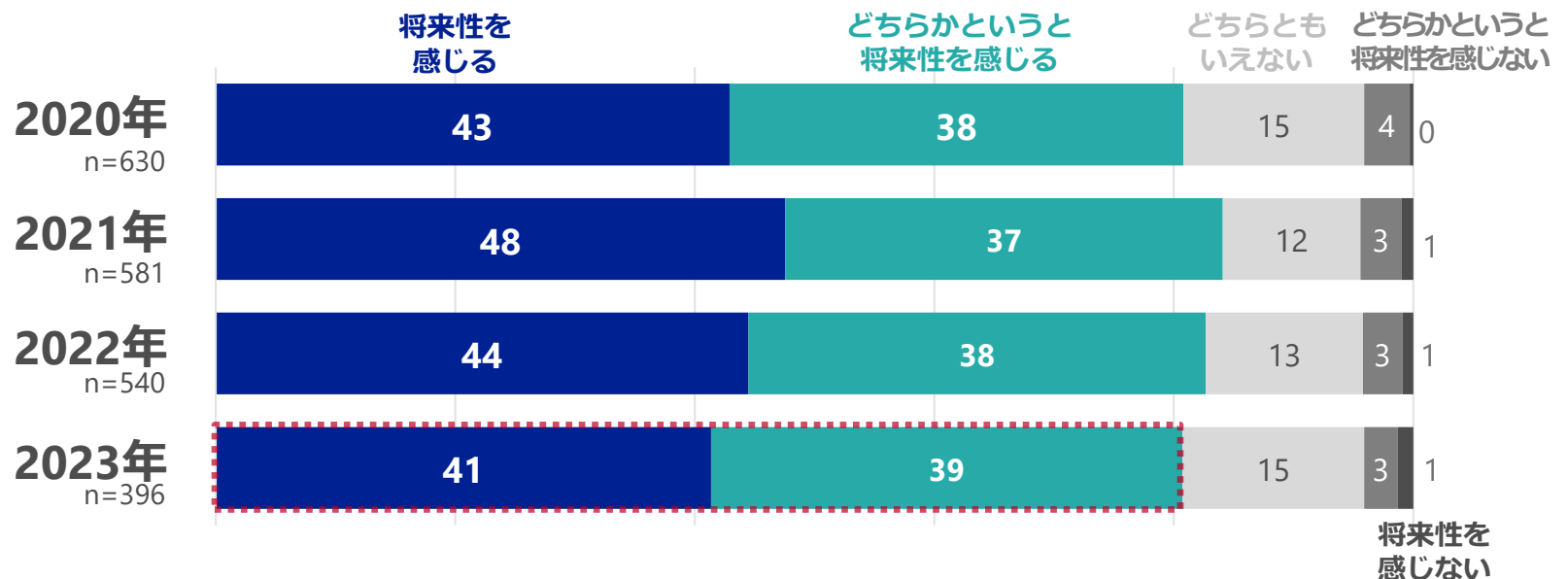
データサイエンティストの将来性

Q. あなたは「データサイエンティスト」という仕事に将来性を感じていますか (SA)

将来性を感じている*のは 80%

引き続き高い傾向にあり

*将来性を感じる+どちらかというと将来性を感じる の計

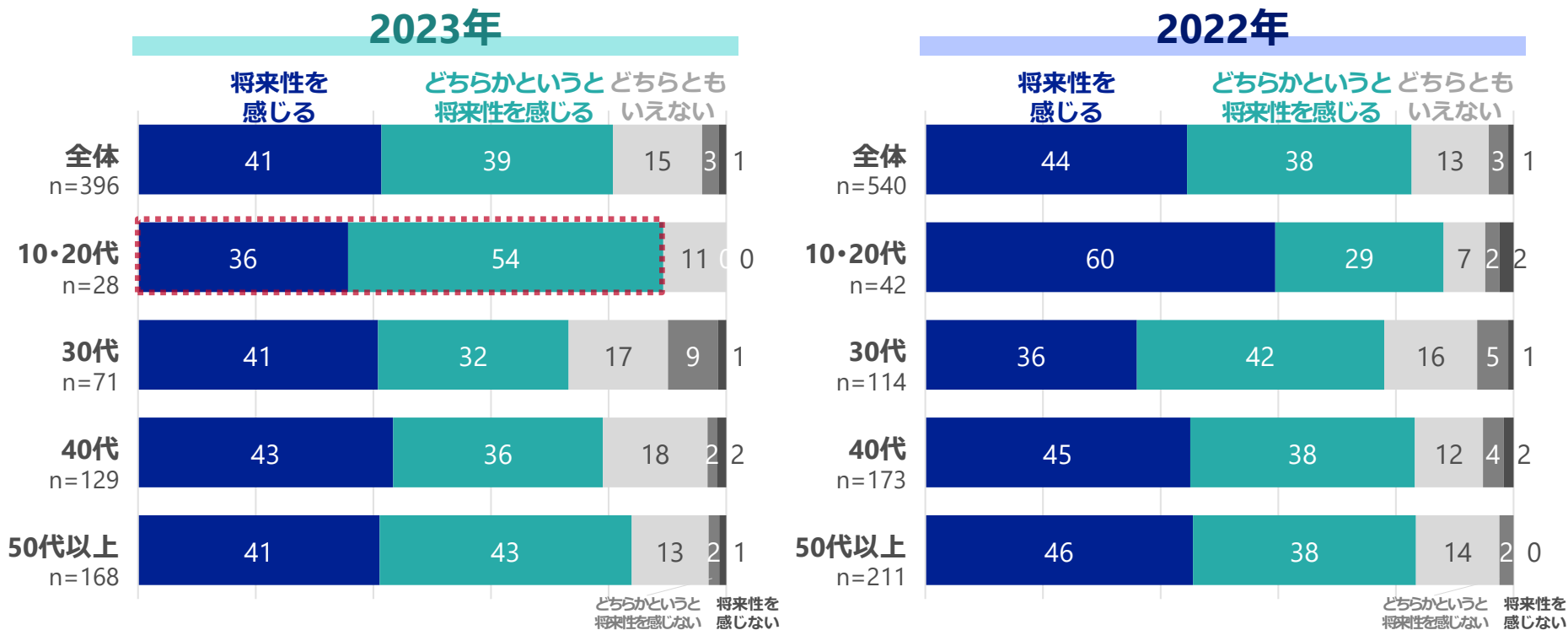


データサイエンティストの将来性（年代別）

Q. あなたは「データサイエンティスト」という仕事に将来性を感じていますか (SA)

10・20代の将来性を感じている割合は9割

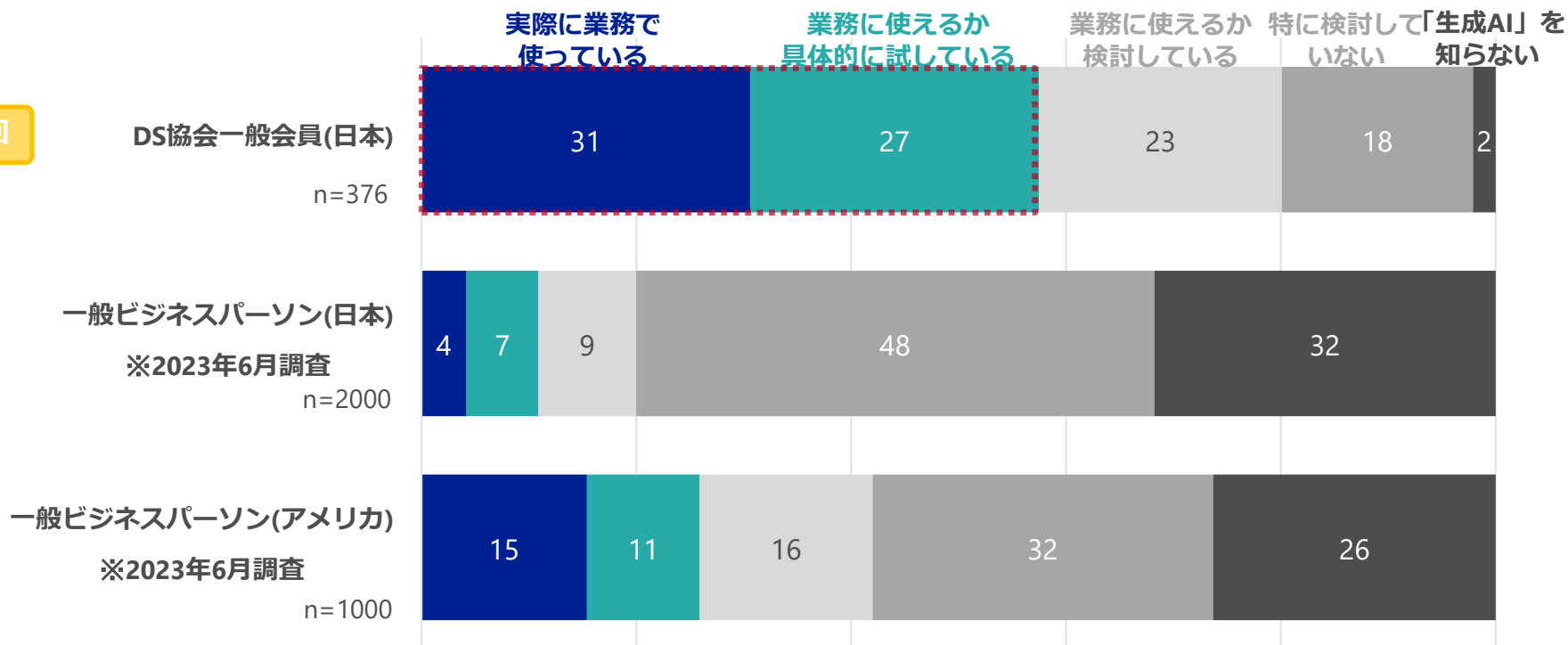
30代で将来性を感じている割合は昨年より5ポイント減



Q. 「生成AI」のツール・アプリ・ソフトなどをご自身の業務で使っていますか。また、ご自身の業務で使えるか検討していますか。（学生／専業主婦(主夫)／あてはまるものはない以外が回答／SA)

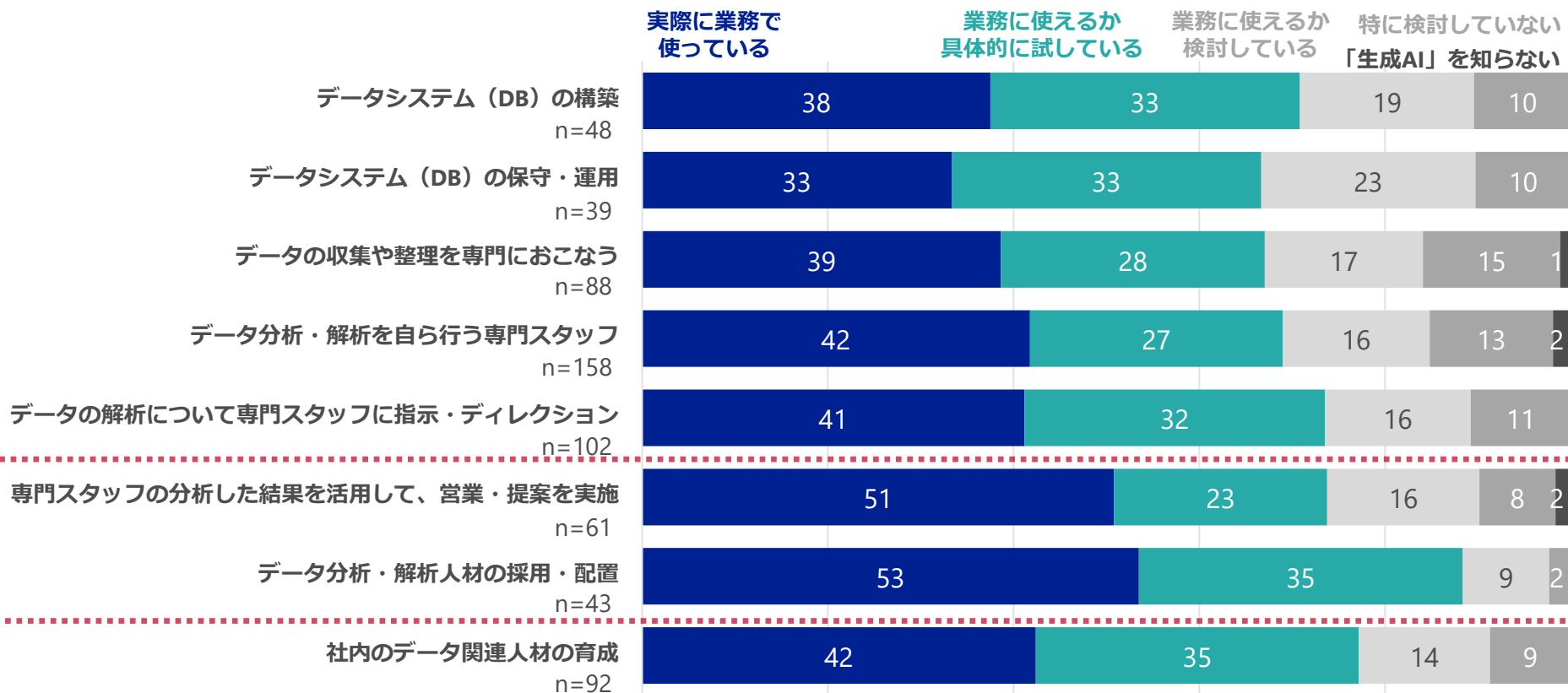
DS協会の会員の5割は 生成AIを業務に使用することに前向き

今回



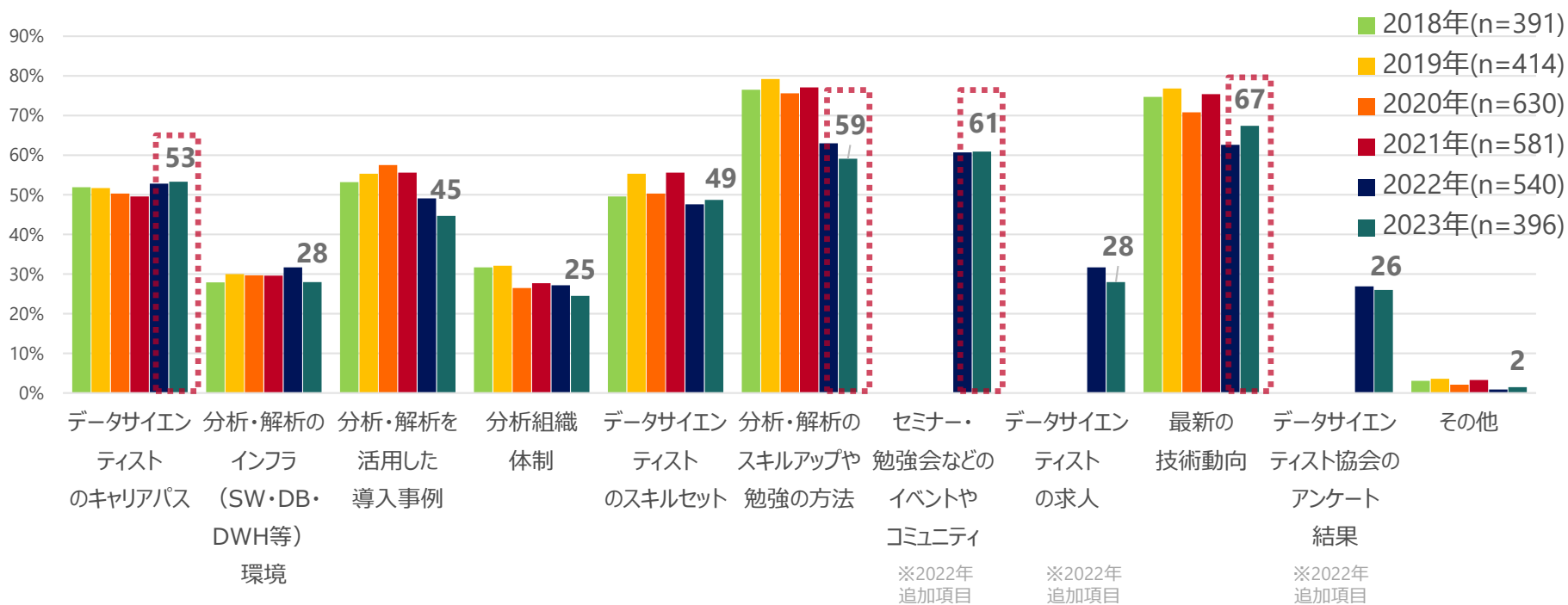
Q. 「生成AI」のツール・アプリ・ソフトなどをご自身の業務で使っていますか。また、ご自身の業務で使えるか検討していますか。（学生／専業主婦(主夫)／あてはまるものはない以外が回答／SA）

データ分析関与者が関わっている業務別にみると、 営業・提案、採用業務を行っている人の活用が5割を超える



Q データサイエンティスト協会から知りたい情報をお聞かせください。(MA)

生成AIの影響か最新の技術動向が前年よりも伸長 次いでイベント、スキルアップ・勉強方法、キャリアパスが高い



まとめ

業種の多様化とデータ活用の内製化が進み 専門組織を備える割合が5ポイント増

多様な業種がDS協会に参加し、社内データを自社で活用の割合も継続増加
所属企業にデータ分析専門組織を備える割合は45%にのぼる

DS協会のスキルセット 及び スキルレベルの認知・活用度は継続的に伸びている

スキルセットの認知・活用割合は5年前の2018年と比較すると9ポイント増加
個人スキルの指針になりつつある

育成プログラムを備える企業・組織の割合は27%で横ばい傾向

ここ数年は20%台が継続しており
育成プログラムの整備に関しては頭打ち状態

**データ分析・解析業務への満足度は47%と 昨年より10ポイント増
データサイエンティストに将来性を感じている割合も8割と引き続き高い**

データサイエンティストとして従事することに前向きな印象を持っている

カンファレンス・製品発表会などへの出席が前年から12ポイント増加

コロナが終息したことでイベントへの参加が活性化

資格を取得する割合が47%と5年間で26ポイント増加

スキルアップのために資格を取得する割合が年々増加
スキルアップに向けて資格の取得がスタンダードになりつつある

業務における生成AIの使用・検討中の割合をみると

DS協会の会員は58%、一般ビジネスパーソンは11%

一般ビジネスパーソンの使用・検討中が11%に対し、DS協会の会員は58%で大きな差
DS協会の会員などのデータサイエンティストでは生成AIの利用に前向き

まとめ

- 多様な業種企業が「データサイエンティスト」へ関心を寄せ、協会に参加データの活用に関心が高まってきている
- スキルセット及びレベルが個人スキルの指針になりつつあり、各企業での利活用も増えている
- 育成プログラムを備える企業・組織は増加することなく伸び悩んでいる
- データサイエンティストは将来性のある職業として感じられている
- コロナが終息したことでイベントへの参加が活性化
- スキルアップのために資格を取得する割合が増えている

- 多様な業種でデータサイエンス人材が求められている。スキルセットの活用が進んでいるが、常に最新の技術がアップデートされる業界のため、育成プログラムの整備に難航している可能性がある。状況をヒアリングしつつ、協会として育成プログラム促進を進めていくことが企業・個人への後押しになると考えられる。
- データサイエンティストは将来性のある職業として認知がされている。そんな中、個人でスキルを伸ばすことに前向きな傾向があり、コロナが終息したことでイベントへの参加が活発になった。一方で若年層は、自身で手軽にできるところから学習を進めている。引き続き、DS検定を含めスキルアップなど学びを得る機会を提供することが大切。